

国士舘要覧

KOKUSHIKAN
GENERAL
INFORMATION

SINCE 1917

2014

CONTENTS

目次

- 02 理事長挨拶
- 03 トピックス
- 04 データファイル 2014
 - 04 学生数
 - 06 留学生数 / 卒業生数
 - 08 就職状況
 - 10 国際交流 / 財務状況
- 12 教育
 - 13 学長挨拶
 - 14 学部
 - 16 大学院
 - 18 校長挨拶
 - 19 中学校・高等学校
- 20 研究
- 22 支援
- 26 組織
- 30 環境
 - 30 世田谷キャンパス
 - 31 町田キャンパス
 - 32 多摩キャンパス
- 33 出版物
- 34 歴史
 - 34 年表
 - 36 設置学校の変遷
- 39 館歌・校章
- 40 アクセス
- 41 お問い合わせ窓口一覧



建学の由来と理念

日本は明治維新後、西洋文明を積極的に受容し、社会の近代化を急速に推進してきました。このため社会はおおいに伸張を遂げましたが、あまりに急激な近代化であったため、伝統文化を破壊し、軽視する風潮さえ生じました。日露戦争後には、国内問題が悪化し国民意識が変化するなかで、さまざまな社会問題が発生し、深刻な社会不安が引き起こされました。

このような当時の社会状況を憂い、柴田徳次郎ら有志は、日本の「革新」をはからんと、「社会改良」と「青年指導」を目的として1913(大正2)年「青年大民団」を組織し、1917(大正6)年、「活学を講ず」の宣言とともに、私塾「國士館」を創立するに至りました。

創立者たちのねらいは、吉田松陰の精神を範とし、教学の適地として世田谷の松陰神社隣接地に学舎を建設し、「國士館設立趣旨」で謳われているように、日々の「実践」のなかから心身の鍛錬と人格の陶冶をはかり、国家社会に貢献する智力と胆力を備えた人材「國士」を養成することにありました。

以来、「國士」養成を理念として、学ぶ者みずからが不断の「読書・体験・反省」の三綱領を実践しつつ、「誠意・勤労・見識・気魄」の四徳目を涵養することを教育理念に掲げ、さまざまな分野で活躍する人材を世に輩出してきました。

今日、國士館は、このような建学の志を大切に継承しながら、新たに発展を遂げた研究教育の諸領域でも、知識と実践の水準を高めつつ、世界の平和と進運を目指し、現代社会に積極的に貢献する真摯な努力を続けています。

理事長挨拶



学校法人国士館 理事長
大澤 英雄

おおさわ ひでお

1936年北海道生まれ。1960年国士館大学体育学部卒業

1960年本学に入職、1981年体育学部教授、1992年から2001年まで同学部学部長、2003年から2006年まで国士館大学学長

2006年本学名誉教授、学校法人国士館常任理事、2008年6月から学校法人国士館副理事長を務め、2009年4月学校法人国士館理事長に就任

1998年全日本大学サッカー連盟理事長、1992年日本サッカー協会理事、2004年全国体育系大学・学長学部長会会長、2008年から全日本大学サッカー連盟顧問、2014年から一般財団法人関東大学サッカー連盟会長

2009年から全国体育スポーツ系大学協議会理事、2012年から日本私立大学協会理事

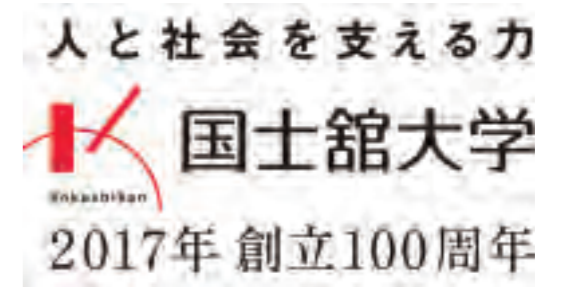
国士館は1917(大正6)年に「私塾国士館」として創立されて以来、一貫して「文武両道」に秀でた人間形成を重視する教育を行ってまいりました。1958年に国士館大学が開校されると同時に体育学部が設置され、以来、学園内外の方々の厚いご支援により、大学7学部・大学院10研究科および中学校、高等学校を擁する総合学園として発展してまいりました。

「世のため、人のために尽くす人材」の養成を旨とし、創立から97年を経て、表現方法は時代と共に変化を遂げてまいりましたが、その根底にあるのは「他への献身」という考え方です。これは、真心を持って人に尽くすことであり、私が学生時代に、本学創立者の柴田徳次郎先生が学生に対して深い愛情をもって教を説く姿から学んだことであります。本学が教育理念として掲げている四徳目「誠意・勤労・見識・気魄」の実践により、人材育成をはからんとした創立者の思いを、現代のニーズに合わせて伝えていくことが、継承者である私たちに課せられた使命であると考えます。一世紀前に創立者が掲げた理念は、今も脈々と受け継がれており、その一例として国士館は現在、キャンパス周辺地域と連携した防災拠点としての機能強化と防災教育を始めています。

本学園は、2017年に創立100周年を迎えます。この大きな節目を迎えるにあたり、学園として総合的な記念事業を計画し、さまざまな改革を進めております。梅ヶ丘校舎の開設、メイプルセンチュリーホールの開館など教育施設の総合整備や経営学部をはじめとする学科・研究科の新設・再編など、変革する時代のニーズにかなう教育・研究環境の整備を進めてまいりました。現在は「国士館百年史」編纂事業のほか、各種プロジェクトによる100周年記念事業を推進しております。今後とも新たな歴史の創造に向けて邁進してまいります。

■ 創立100周年記念事業を推進—ロゴマークを制定

学校法人国士館は、2017年の創立100周年に向け、記念事業を総合的に審議する「国士館創立100周年記念事業委員会」を設置するとともに、担当課とプロジェクトチームを設け、記念事業を推進していきます。このたび当事業を広く周知するため、スローガンとロゴマークのほか、100周年キャラクター「KOKUSHIBA(コクシバ)」を制定しました。スローガン「人と社会を支える力」は、「世のため、人のために尽くす人材の育成」を教育理念とする国士館の使命が表現されています。いずれも、創立100周年を契機とするあらゆるコミュニケーションを図るためのツールとして、さまざまな場面で展開されていきます。



■ 2014年4月より体育学科に「スポーツトレーナーコース」を新設

体育学部体育学科では、既存の「学校体育コース」「アスリートコース」に加え、2014年4月から新たに「スポーツトレーナーコース」を設置しました。2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まるなど、スポーツへの注目度が高まるなかアスリートやプロのチームを支えるトレーナーの必要性が高まっています。「スポーツトレーナーコース」では、世界で認められているNSCA(National Strength and Conditioning Association)などの資格を取得し、スポーツ界や社会体育分野で活躍する人材を育成します。



■ 格付評価は昨年につき「AA-」／「安定的」を取得

学校法人国士館は、2014年4月22日付けで株式会社日本格付研究所(JCR)より、昨年に引き続き長期発行体格付による「AA-(ダブルAマイナス)」の格付を取得し、格付の見直しは「安定的」と評価されました。

「AA-」は、10等級ある格付の上から2番目(AAレンジ)に位置し、「債務履行の確実性は非常に高い」とされています。本法人は、今後も教育・研究の質の向上に努め、社会に積極的な貢献を果たすため一層の努力を続けてまいります。



学生数

学生・生徒数 ()は女子内数

(単位:人)

大学院	修士課程	220 (59)	267 (76)
	博士課程	47 (17)	
学部			13,109 (3,103)
大学院・学部合計			13,376 (3,179)

大学院

専攻	学生数		
	修士課程	博士課程	
政治学研究科	政治学専攻	21 (7)	9 (5)
経済学研究科	経済学専攻	24 (7)	7 (2)
経営学研究科	経営学専攻	18 (7)	1 (1)
スポーツ・システム研究科	スポーツ・システム専攻	41 (10)	6 (1)
救急システム研究科	救急救命システム専攻	10 (1)	5 (2)
	救急救命システム専攻(1年コース)(修)	5 (0)	—
工学研究科	機械工学専攻(修)	12 (0)	—
	電気工学専攻(修)	18 (4)	—
	建設工学専攻(修)	14 (3)	—
	応用システム工学専攻(博)	—	7 (0)
法学研究科	法学専攻	14 (3)	2 (0)
総合知的財産法学研究科	総合知的財産法学専攻(修)	13 (5)	—
人文科学研究科	人文科学専攻	7 (1)	4 (1)
	教育学専攻	5 (0)	0 (0)
グローバルアジア研究科	グローバルアジア専攻(修)	18 (11)	—
	グローバルアジア研究専攻(博)	—	6 (5)
大学院計		220 (59)	47 (17)

学部

学部	学科	学部別合計	学生数
政経学部	政治学科	2,650 (429)	829 (138)
	フレックスA		1 (0)
	フレックスB		1 (0)
	経済学科		1,758 (285)
	フレックスA		2 (0)
	フレックスB		2 (0)
体育学部	経営学科	2,430 (559)	57 (6)
	体育学科		1,016 (159)
	武道学科		378 (86)
	スポーツ医科学科		646 (133)
	こどもスポーツ教育学科		390 (181)
理工学部	理工学科	1,513 (201)	1,513 (201)
法学部	法律学科	1,876 (430)	965 (230)
	現代ビジネス法学科		911 (200)
文学部	教育学科	1,735 (631)	233 (100)
	教育学専攻		138 (46)
	倫理学専攻		168 (95)
	初等教育専攻		310 (118)
	史学地理学科		162 (31)
	考古・日本史学専攻		275 (53)
	東洋史学専攻		275 (53)
	地理・環境専攻		129 (44)
	文学科		320 (144)
	中国語・中国文学専攻		320 (144)
日本文学・文化専攻	320 (144)		
21世紀アジア学部	21世紀アジア学科	1,713 (525)	1,713 (525)
経営学部	経営学科	1,192 (328)	1,192 (328)
学部計			13,109 (3,103)

学生数1万人規模の大学

平成25年度の文部科学省の統計によると、全国782大学(国立86校、公立90校、私立606校)中、1万人を超える学生が在籍している私立大学は41校、そのひとつが本学です。

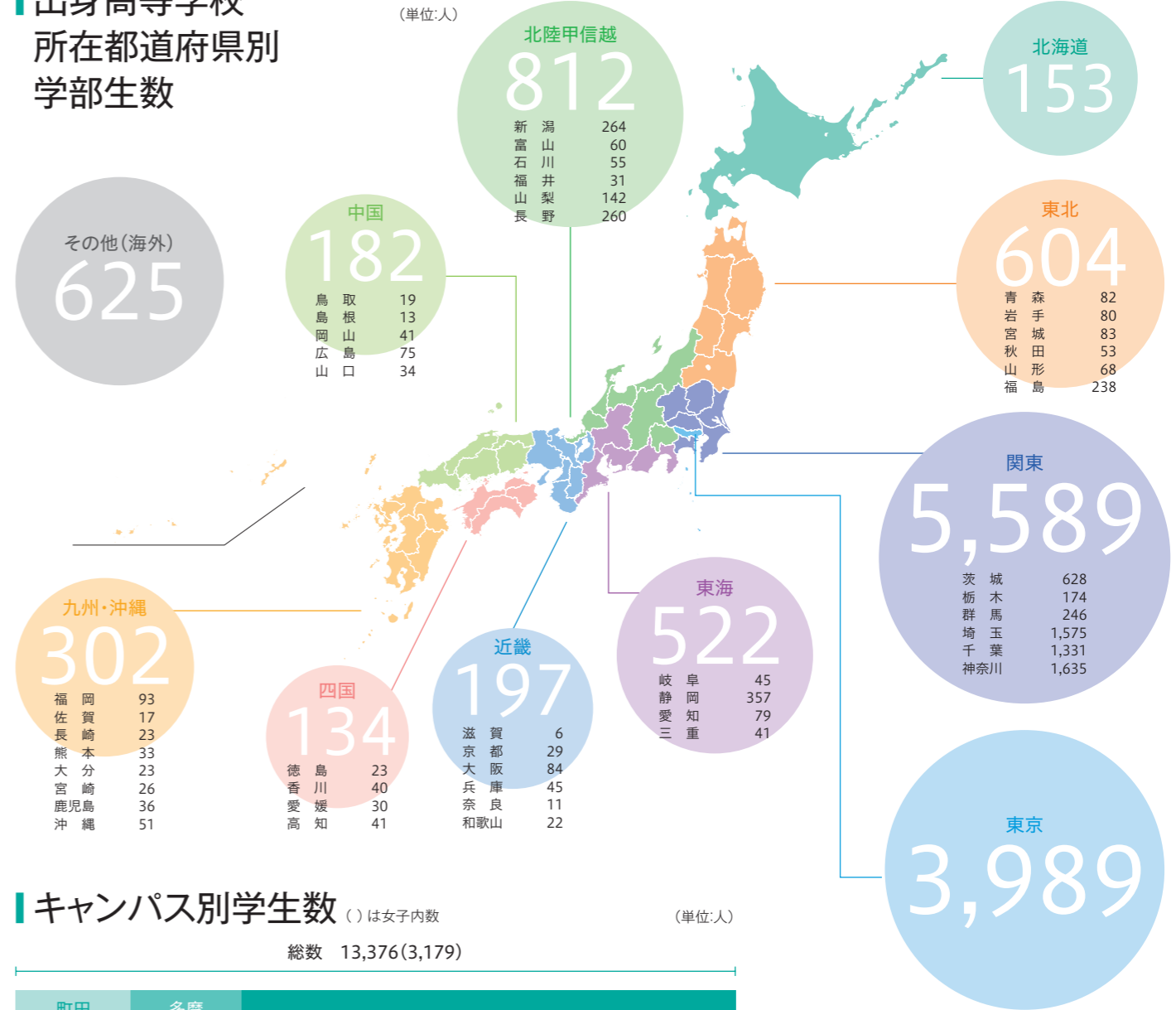
高等学校・中学校

高等学校	生徒数	
	全日制	定時制
高等学校	694 (225)	160 (23)
中学校	195 (69)	—
合計	1,049 (317)	—

*学生・生徒数および学部志願者・入学者数は「学校法人基礎調査」(5/1現在)に基づいています。

出身高等学校 所在都道府県別 学部生数

(単位:人)



キャンパス別学生数 ()は女子内数

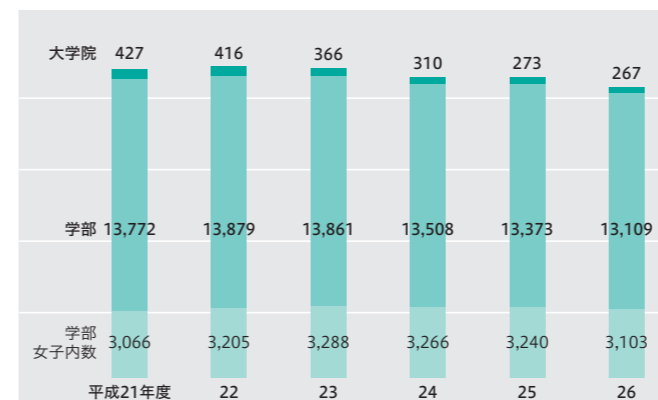
(単位:人)

総数 13,376(3,179)

町田	多摩	世田谷
2,127 (722)	2,107 (392)	9,142(2,065)

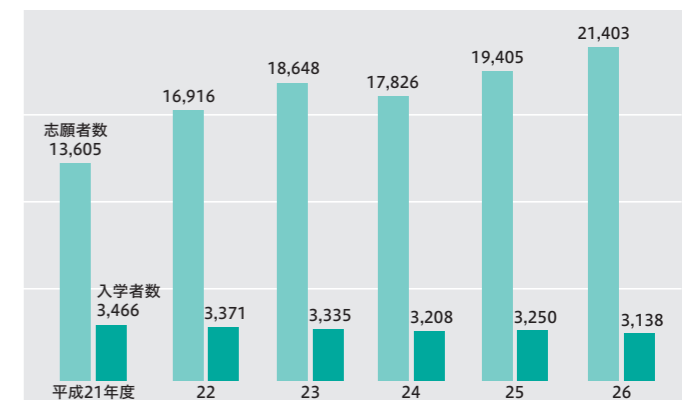
学生数推移

(単位:人)



学部志願者・入学者数推移

(単位:人)



留学生数／卒業生数

出身国(地域)別留学生数

*正規課程在籍留学生数
(単位:人)

	大学院(修)	大学院(博)	政経学部	体育学部	理工学部	法学部	文学部	21世紀アジア学部	経営学部	合計
① 中国	56	8	71		64	11	15	241	45	511
② 韓国	2		12		4			35	6	59
③ インドネシア	2	5						1		8
④ ベトナム	2		2	1				2		7
⑤ キルギス								5		5
⑥ 台湾			2					3		5
⑦ ミャンマー								4		4
⑧ マレーシア					2				1	3
⑨ モンゴル	1		1							2
⑩ ロシア		1						1		2
⑪ イラン		1								1
⑫ サウジアラビア					1					1
⑬ タイ								1		1
⑭ ウルグアイ	1									1
合計	64	15	88	1	71	11	15	293	52	610



卒業・修了生数累計

(単位:人)

	学部等	設置年	平成25年度卒業・修了生数	累計
大学院	修士課程	昭和40(1965)年～	102	3,005
	博士課程	昭和40(1965)年～	1	111
	計		103	3,116
学部	政経学部*	昭和36(1961)年～	887	35,147
	政経学部二部	昭和40(1965)年～平成19(2007)年	—	13,034
	体育学部	昭和33(1958)年～	558	20,874
	工学部	昭和38(1963)年～平成25(2013)年	—	12,379
	理工学部	平成19(2007)年～	309	1,100
	法学部	昭和41(1966)年～	422	14,289
	文学部	昭和41(1966)年～	357	19,153
	21世紀アジア学部	平成14(2002)年～	395	3,637
計		2,928	119,613	
高等学校	全日制	昭和23(1948)年～	281	15,201
	定時制	昭和23(1948)年～(旧制・商業科含む)	55	2,139
	通信制	平成12(2000)年～	67	1,054
	工業科		—	1,784
	計		403	20,178
中学校	旧制	大正12(1923)年～昭和23(1948)年	—	1,403
	新制	昭和22(1947)年～	33	2,149
	計		33	3,552
福祉専門学校		平成7(1995)年～18(2006)年	—	333
その他(短期大学等)			—	8,863
合計			3,467	155,655

※政経学部一部含む

博士学位授与者数

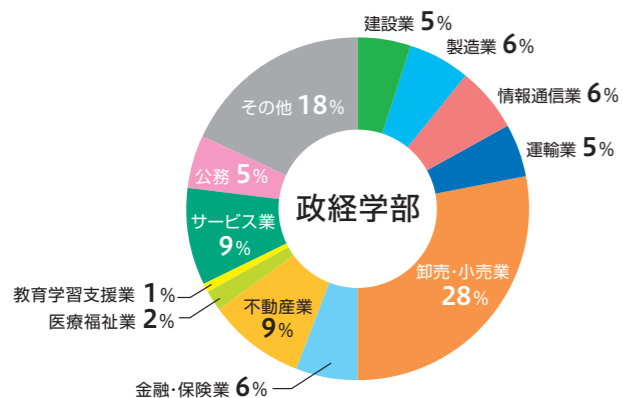
(単位:人)

区分	平成25年度	累計
課程博士授与者数	2	31
論文博士授与者	2	37
合計	4	68



就職状況

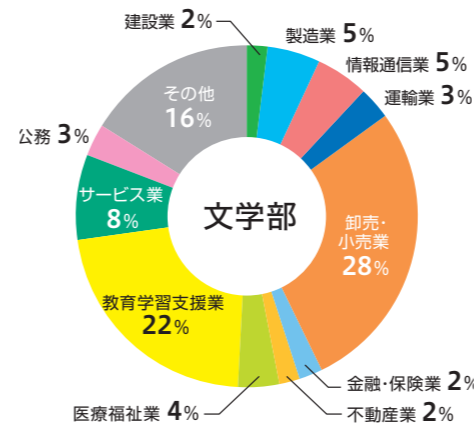
業種別就職状況(平成25年度)



主な就職先(平成25年度)

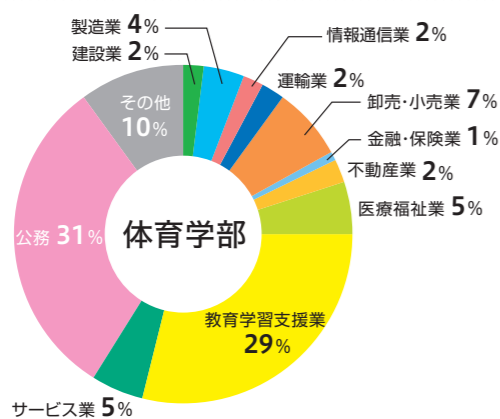
政経学部

- | | |
|---------------|-------------------|
| (株)産業経済新聞社 | (株)三井住友銀行 |
| (株)大都技研 | (株)みずほフィナンシャルグループ |
| 積水ハウス(株) | (株)第四銀行 |
| 東京地下鉄(株) | リゾートトラスト(株) |
| 茨城県信用組合 | しのめ信用金庫 |
| 加賀電子(株) | 自衛隊 |
| 吉野石膏(株) | 警視庁ほか各都道府県警察 |
| 九州旅客鉄道(株) | 東京消防庁ほか各地の消防 |
| (財)空港保安事業センター | 公立学校教員 |
| 東日本旅客鉄道(株) | 都道府県市区町村公務員 |



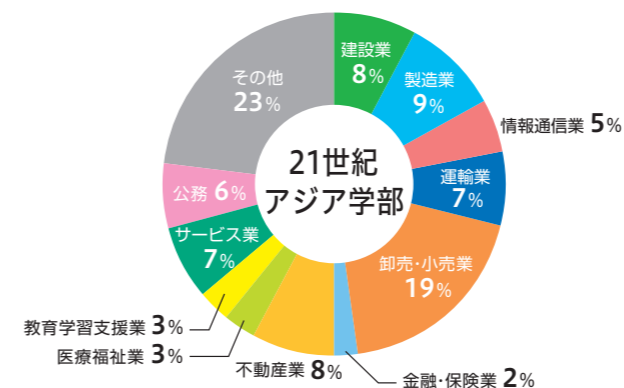
文学部

- | | |
|-------------------|-------------------|
| (株)三越伊勢丹ビジネス・サポート | スワロフスキー・ジャパン(株) |
| (株)JT B首都圏 | 青梅信用金庫 |
| (株)成田デンタル | (株)デイリー・インフォメーション |
| みずほ証券ビジネスサービス(株) | 長野県農業協同組合中央会 |
| 朝日航洋(株) | 日本郵便(株) |
| 東京地下鉄(株) | (株)東横イン |
| 東武トラベル(株) | (株)AOKI |
| 文明堂製菓(株) | 自衛隊 |
| 平塚信用金庫 | 高知県警察 |
| 北海道旅客鉄道(株) | 公立私立学校教員 |



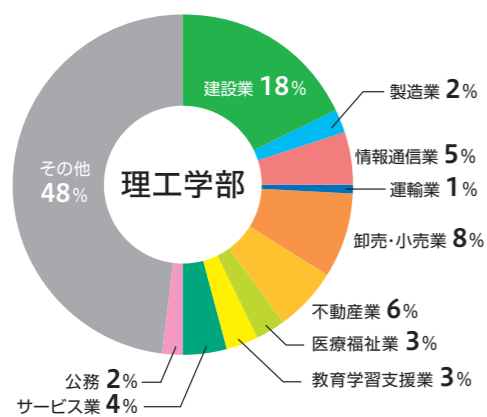
体育学部

- | | |
|--------------|----------------------|
| 東京消防庁ほか各地の消防 | (株)三井住友銀行 |
| 警視庁ほか各都道府県警察 | 味の素製菓(株) |
| 公立私立学校教員 | 西尾レントオール(株) |
| 都道府県市区町村公務員 | (株)アクティオ |
| 自衛隊 | (株)幼児体育研究所 |
| (株)ぐるなび | フクダ電子(株) |
| (株)八神製作所 | (株)ジャパンビバレッジホールディングス |
| 東京急行電鉄(株) | 栃木トヨタ自動車(株) |
| (株)栃木銀行 | (株)ハイデイ日高 |
| (株)大塚家具 | (株)東京アカデミー |



21世紀アジア学部

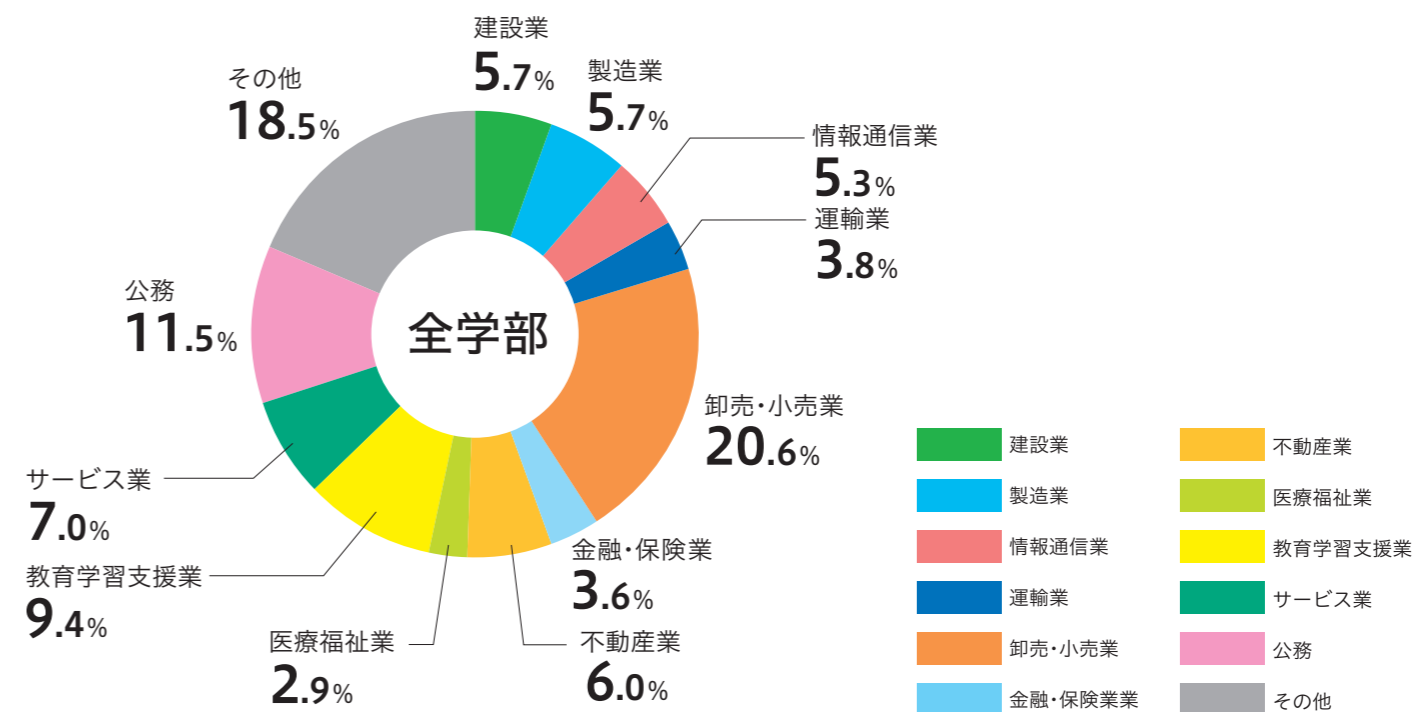
- | | |
|---------------------|-------------|
| (株)アルプスツール | 羽田空港サービス(株) |
| (株)タカラレーベン | (株)あさひ |
| (株)サマンサタバサジャパンリミテッド | (株)JT B中部 |
| (株)デイリースポーツ案内広告社 | 東日本旅客鉄道(株) |
| (株)阪神タイガース | 茨城トヨタ自動車(株) |
| (株)星野リゾート | 自衛隊 |
| 全日本空輸(株) | 高知県警察 |
| 東海東京証券(株) | 神奈川県消防 |
| 東京地下鉄(株) | 公立私立学校教員 |
| ANAエアポートサービス(株) | 都道府県市区町村公務員 |



理工学部

- | | |
|-----------------|------------------------|
| (株)アビスト | (株)アールアンドアール |
| スズキ(株) | (株)ミライト・テクノロジーズ |
| 本田技研工業(株) | 岩城製菓(株) |
| ジェイ・アール・シー特機(株) | 中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京(株) |
| ソフトバンク(株) | 日本サーモスタット(株) |
| 積水ハウス(株) | (株)ジェッター |
| 大和ハウス工業(株) | 自衛隊 |
| 双葉鉄道工業(株) | 警視庁ほか各都道府県警察 |
| 東日本旅客鉄道(株) | 東京消防庁 |
| 住友林業(株) | 公立学校教員 |

全学部 業種別就職状況(平成25年度)



法学部

- | | |
|------------------|-----------------|
| 警視庁ほか各都道府県警察 | 横浜信用金庫 |
| 東京消防庁ほか各地の消防 | (株)ファイブ・フォックス |
| 公立私立学校教員 | (株)ベストプライダル |
| 都道府県市区町村公務員 | (株)筑波銀行 |
| 自衛隊 | (株)巴商会 |
| (株)クワザワ | アイリスオーヤマ(株) |
| (株)スターダストプロモーション | イギン(株) |
| (株)マイナビ | 城南信用金庫 |
| (株)河合楽器製作所 | ANAエアポートサービス(株) |
| (株)京葉銀行 | 足利小山信用金庫 |

国際交流／財務状況

海外協定校

◆海外研修校

地域	所在地	大学名
①	アメリカ	ニューヨーク セント・ジョンズ大学◆
②		カリフォルニア デイビス カリフォルニア大学デイビス校◆
③		カリフォルニア サンフランシスコ サンフランシスコ州立大学
④	カナダ	クランブルック カレッジ・オブ・ザ・ロック◆
⑤		バンクーバー サイモン・フレージャー大学
⑥	オーストラリア	ブリスベン グリフィス大学◆
⑦	韓国	ソウル 漢陽大学校
⑧		釜山 東義大学校
⑨		慶尚北道 国立安東大学校
⑩		ソウル 高麗大学校
⑪		光州 国立全南大学校◆
⑫	中国	北京市 北京師範大学
⑬		北京市 北京工業大学◆
⑭		山西省 山西大学
⑮		江蘇省 蘇州大学
⑯		黒龍江省 黒龍江大学
⑰		上海市 上海対外経貿大学
⑱		湖北省 武漢大学
⑲		吉林省 吉林大学
⑳		遼寧省 大連外国語大学
㉑		遼寧省 大連東軟信息学院
㉒		広東省 深圳職業技術学院
㉓		山東省 青島大学

地域	所在地	大学名
㉔	台湾	台北市 中国文化大学
㉕		高雄市 国立中山大学
㉖	モンゴル	ウランバートル モンゴル国立大学
㉗	フィリピン	マニラ デ・ラ・サール大学
㉘	ベトナム	ホーチミン ベトナム国家社会人文学科大学(USSH)
㉙	インドネシア	ジョグジャカルタ ガジャマダ大学
㉚		ソロ セブラスマル大学
㉛	タイ	バンコク チュロンコン大学
㉜		チェンマイ チェンマイ大学
㉝	ハンガリー	ブダペスト サマルバイス大学
㉞	ドイツ	ミュンヘン ミュンヘン大学
㉟	ロシア	ウラジオストク 極東連邦大学
㊱	ウズベキスタン	サマルカンド 国立サマルカンド外国語大学
㊲		タシケント 世界経済外交大学
㊳	キルギス	ビシュケク キルギス国立民族大学
㊴	エチオピア	アディス・アベバ アディス・アベバ大学
㊵	イラク	バグダッド イラク国考古遺産庁
㊶	ヨルダン	イルビド ヤルムーク大学
㊷	イギリス	ポーツマス ポーツマス大学◆
㊸	ブルガリア	ソフィア 国立スポーツアカデミー
㊹		ヴェルコ・タルノボ ヴェルコ・タルノボ大学
㊺	トルコ	バン ユズンジュ・ユル大学
㊻	スウェーデン	ルレオ ルレオ工科大学



科学研究費助成事業 - 科研費 - 交付額 (平成26年度)

種目	件数	金額(千円)
基盤研究 (A)	2	13,780
基盤研究 (B)	3	14,690
基盤研究 (C)	22	29,640
挑戦的萌芽研究	4	5,980
若手研究 (B)	7	7,280
計	38	71,370

科研費

科研費とは、我が国の学術を振興するため、人文・社会科学から自然科学まであらゆる分野にわたり、基礎から応用までの独創的・先駆的な研究を進展させることを目的とした、文部科学省及び日本学術振興会が交付を行っている「競争的研究資金」です。

外部資金受入状況 (平成25年度)

区分	件数	受入額(千円)
受託研究	3	2,300
奨学寄附金	10	6,746

受託研究

企業等から委託を受けて本学の研究者が行う研究

奨学寄附金

企業や篤志家などから寄附金を受け入れて、学術研究や教育の充実・発展に活用する制度

財務状況

平成25年度 資金収支計算書

収入の部

科目	決算額(百万円)
学生生徒等納付金・手数料収入	15,897
寄付金収入	36
補助金収入	1,620
その他の収入	10,154
資金収入調整勘定	△ 4,778
前年度繰越支払資金	10,001
収入の部合計	32,929

支出の部

科目	決算額(百万円)
人件費支出	10,105
教育研究経費支出	4,292
管理経費支出	1,060
施設・設備関係支出	839
その他の支出	7,507
資金支出調整勘定	△ 810
次年度繰越支払資金	9,936
支出の部合計	32,929

平成25年度 消費収支計算書 (帰属収入構成比率)

消費収入の部

科目	決算額(百万円)	比率
学生生徒等納付金・手数料	15,897	85.0%
寄付金	52	0.3%
補助金	1,620	8.7%
その他	1,130	6.0%
帰属収入合計	18,698	100.0%
基本金組入額合計	△ 200	-1.1%
消費収入の部合計	18,498	98.9%
帰属収支差額 (参考)	△ 2,781	-14.9%

消費支出の部

科目	決算額(百万円)	比率
人件費	13,053	69.8%
教育研究経費	6,135	32.8%
管理経費	1,341	7.2%
その他	950	5.1%
消費支出の部合計	21,479	114.9%
当年度消費支出超過額	2,981	-
前年度繰越消費支出超過額	17,465	-
基本金取崩額	616	-
翌年度繰越消費支出超過額	19,830	-

貸借対照表 (平成26年3月31日現在)

資産の部

科目	金額(百万円)
固定資産	60,102
有形固定資産	(42,771)
その他の固定資産	(17,330)
流動資産	11,289
資産の部合計	71,390

負債・基本金・消費収支差額の部

科目	金額(百万円)
固定負債	12,143
流動負債	5,385
基本金	73,692
翌年度繰越消費支出超過額	19,830
合計	71,390

* 表中の決算額は、百万円未満を四捨五入しているため、合計金額が計算上一致しない場合があります。

大学



学部	大学院
政経学部	政治学研究科
体育学部	経済学研究科
理工学部	経営学研究科
法学部	スポーツ・システム研究科
文学部	救急システム研究科
21世紀アジア学部	工学研究科
経営学部	法学研究科
	総合知的財産法研究科
	人文科学研究科
	グローバルアジア研究科

平成26年度 学年暦

■平成26年	
4. 1(火)	4月入学者学年開始、4月入学式
4. 2(水)	4月入学者オリエンテーション及び履修登録、 学生定期健康診断期間
4.10(木)	↓
4.11(金)	春期授業開始
7.25(金)	春期定期試験
8. 2(土)	↓ 春期授業終了
8. 3(日)	夏季休業
9.15(月)	9月入学者学年終了
9.16(火)	9月入学者学年開始
9.17(水)	9月入学者オリエンテーション及び履修登録
9.19(金)	↓
9.20(土)	9月卒業式、9月入学式
9.21(日)	↓
9.22(月)	秋期授業開始
9.26(金)	学生定期健康診断(9月入学生のみ)
10.18(土)	鶴川祭(10月18日町田キャンパスのみ休講)
10.19(日)	↓
11. 2(日)	楓門祭
11. 3(月)	↓
11. 4(火)	創立記念式典
11.15(土)	多摩祭(11月15日多摩キャンパスのみ休講)
11.16(日)	↓
12.23(火)	冬季休業
■平成27年	
1. 4(日)	↓
1.24(土)	秋期定期試験
2. 7(土)	↓ 秋期授業終了
3.20(金)	3月卒業式
3.30(月)	在校生ガイダンス
3.31(火)	↓ 4月入学者学年終了

学長挨拶



国土館大学 学長
三浦 信行

みうら・のぶゆき

1942年宮城県生まれ。1971年国土館大学大学院政治学
研究科政治学専攻博士課程修了、1972年政治学博士(国
土館大学)

1971年本学に入職。1984年政経学部二部教授、1987
年から1992年まで同学部学部長、1992年から1994年
まで国土館大学兼国土館短期大学副学長、1994年から
2003年まで国土館大学兼国土館短期大学学長、同年学
校法人国土館理事
2003年学校法人国土館教学顧問

2012年12月国土館大学学長に就任。同年学校法人国土
館理事、同評議員

このほか、世田谷区特別職報酬等審議会会長、日本法政学
会理事、みやぎ絆大使

専門は政治学

バブル崩壊後、長らくデフレ経済に苦しんできた日本経済も、大胆な金融政策や成長戦略を標榜するアベノミクスの登場で少なからず元気を取り戻しつつあります。しかし、その成果はいまだ十分とはいえません。世界では、内戦や核開発、領土、環境問題など課題は山積し、グローバル時代にふさわしいリーダーシップが不在の混迷した状況が続いております。翻って、超少子高齢並びに人口減少社会を迎えつつある日本の大学教育に目を転じると、それを取り巻く社会情勢は一段とその厳しさを増しています。成熟社会といわれる今日こそ、本学はその原点に立ち返り、創立者柴田徳次郎が示した文武両道つまりは心身両面から人間力を育む教育の殿堂を創造したいと考えております。

国土館大学は、長年にわたり、国土館ブランドの一つともいえる「公務員・教職に強い大学」を堅持してきました。本年度開設した教職支援室では、教員採用試験対策を講じ、今後さらに確かなものとするため、公務員試験の支援体制拡充を強力に推し進めてまいります。また、大学が地域と連携して取り組む防災教育の充実と発展に向けた取り組みも、本学の使命として深化させていきたいと考えております。

本学は、創立者柴田徳次郎が1917年、東京・麻布の地に人材育成の教育道場を創設したことに由来します。吉田松陰の精神を範とする創立者らは1919年、松陰神社に隣接する現在の世田谷に拠点を移しました。以来、97年を経て、今や14万におよぶ卒業生を社会に輩出する総合大学へと大きく発展しました。2017年には創立100周年を迎えます。本学の歴史と伝統の基盤である進取の精神をいま一度、生き生きと蘇らせ、創造的かつ持続可能な未来を切りひらくために全教職員が力のすべてを結集し、新たなる歴史創出に寄与する大学を構築してまいります。

学部

学びの多様性、そして学ぶ魅力に満ちあふれた7学部。
知識の吸収だけでなく、人格の陶冶を図ることを重んじる人材育成に力を注いでいます。

政経学部

■政治学科 ■経済学科 ■経営学科 (2011年度から募集停止)
学部長 青木 俊介

世田谷



豊かな人間性と専門性を兼ね備えた 社会人の育成

政経学部の基本的教育目標は、人間性と専門性をともに持つ人材の養成です。政治、経済分野の専門性だけに偏らない、体力、気力、人間力、学際的知力、礼節などバランスのとれた人材養成を教育の基本方針としています。教育制度の充実も継続的に図っており、半年ごとに授業が終了するセメスター制の導入や、科目履修の選択の幅を広げるため、他学科カリキュラムを自由に選択できるカリキュラム履修フレックス制などを導入しています。また、きめ細かい学生指導が行えるように2学科共通で4年間を通した小クラスゼミナールにも力を注いでいます。

体育学部

■体育学科 ■武道学科 ■スポーツ医科学科
■こどもスポーツ教育学科
学部長 川田 儀博

多摩・町田



スポーツの発展と振興の一翼を担う

体育学部は、体育の指導者をはじめ、世界で活躍するスポーツ選手や救急救命士など、優れた人材を多数輩出しています。2000年には既存の体育学科に加え、武道学科とスポーツ医科学科を、2008年にはこどもスポーツ教育学科を設置。体育学科は「心技体」のバランスのとれた人材の育成、武道学科は豊かな武道精神や倫理観の習得、スポーツ医科学科は救急救命士になるための知識と技術の習得、こどもスポーツ教育学科は身体と心を教育し、人間性の育成に貢献できる指導者の養成に努めています。2014年には体育学科に「スポーツトレーナーコース」を新設し、より多様な学びが可能になりました。

法学部

■法律学科 ■現代ビジネス法学科
学部長 福永 清貴

世田谷



法的思考力を身につけた 公務員やビジネスパーソンを育成

法学部は、国や社会の基本となる法律を中心に学ぶ法律学科と、ビジネスの現場に不可欠な法律や知的財産に関連する法律なども学ぶ現代ビジネス法学科の2学科体制です。これにより、現代社会が抱えている多様な問題を法的観点から学ぶことができます。法の学びを通して本学の使命である「人の役に立ち、社会に役立つ人材の育成」に力を注いでいます。模擬法廷教室(写真上)を利用した模擬裁判や法律討論会、裁判傍聴・裁判所見学等、法を実践的に学ぶ体験型教育も取り入れながら、市民社会やビジネス界で活躍するために必要な法的思考力を身につけた人材を育成します。

21世紀アジア学部

■21世紀アジア学科
学部長 横沢 民男

町田



アジアを中心にグローバルな活躍のできる 国際感覚豊かな人材を育成

21世紀アジア学部は、世界で存在感が強まるアジア地域の21世紀における在り方を研究し、新時代にふさわしいグローバルな視野をもつ人材育成を目的とした社会科学系の総合学部です。「コミュニケーション能力の育成」「文化・歴史への理解」「時代に合った実践的な専門性」の3つを教育の柱とし、学術的かつ実践的な専門性を身につけた学生を育成しています。めまぐるしく変化する世界情勢を先取りしながら、他国の伝統や文化にも深い理解と関心を示すなど、アジアを中心にグローバルな活躍のできる豊かな国際感覚を身につけた人材を数多く輩出しています。

理工学部

■理工学科
学部長 二川 佳央

世田谷



人の役に立つ科学技術を担う

理工学部は、「1学科6学系」という教育システムを新しく採用し、2007年に生まれ変わりました。機械工学系、電子情報学系、建築学系、まちづくり学系*、健康医工学系、基礎理学系の6学系を有機的に連携させ、人の役に立つ科学技術を習得していきます。入試についても入学時に学系を指定する従来の方式に加えて、2年次に進級する際に学系を選択し、専門性を深める「フレキシブルタイプ」を選ぶことができます。絶え間なく進歩を続ける科学技術に対応した応用力を身につけ、さらなるチャレンジに向けた、きめの細かい教育による人材育成に力を注いでいます。

*2014年度より都市ランドスケープ学系を名称変更

文学部

■教育学科 ■史学地理学科 ■文学科
学部長 石橋 崇雄

世田谷



国際化社会に必要な人文科学の諸分野を 充実した少人数教育で学ぶ

哲・史・文のそろった文学部は、教育学科(教育学専攻、倫理学専攻、初等教育専攻)、史学地理学科(考古・日本史学専攻、東洋史学専攻、地理・環境専攻)、文学科(中国語・中国文学専攻、日本文学・文化専攻)の3学科8専攻で構成し、国際化社会に必要な人文科学の諸分野を幅広く学ぶことができます。「一人ひとりの顔が見える教育」を重視し、1クラス10人以下のゼミで充実した少人数教育を実施しています。また本学部では外国人留学生が日本の歴史・文化・環境を総合的に考究して国際理解を深めるために学んでおり、本学部からも交換留学生を派遣するなど、活発な国際交流を行っています。

経営学部

■経営学科
学部長 白銀 良三

世田谷



国際社会で活躍できる ビジネスリーダーを養成

経営学部は、2011年に政経学部から独立して開設された学部です。絶えず変動する経済情勢や環境の変化を受け入れながら、常に前向きな戦略を持ってビジネスに携わっていきける能力を本学部では「ビジネス人基礎力」と定義し、すべての学生が4年間で身につけられるよう特色あるカリキュラムを設けています。きめ細かい指導を目指し、4年間を通して開設されるゼミナールでのグループワークやプレゼンテーションは、徹底した少人数教育にこだわっています。また、ビジネスシーンで必要性の高い「英語」と「中国語」の二カ国語に重点を置いた語学指導で、国際社会で活躍できる適応力と創造性に満ちた人材を養成します。



政治学研究科

■政治学専攻(修士・博士課程)
研究科長 佐藤 圭一

世田谷

政治に関する高度な専門知識を 実務に生かす人材の養成

半世紀近い歴史を有する本学で最初に開設された研究科です。正統派アカデミズムの伝統を守り、理論的な分析力とその応用力の育成を目的として、憲法、政治理論、地方行政から国際関係など、政治に関する主要分野を網羅しています。また、アメリカやアジア・中近東を取り巻く政治環境をテーマにした地域研究にも積極的に取り組み、グローバル化時代を意識した多彩なカリキュラムを用意し、より高度な識見を備えた研究者・教育者と専門的職業人の養成に努めています。本研究科は、社会人や留学生も積極的に受け入れており、国際的な交流の場ともなっています。

経済学研究科

■経済学専攻(修士・博士課程)
研究科長 藤本 公明

世田谷

歴史、理論、政策の研究とともに 実務的な分野も重視

「社会に貢献できる経済分野の専門家の育成」という理念のもとに、在籍者の専門的能力の育成に努めています。修士課程では経済学修士の学位の取得に必要な専門能力の育成及び税理士などの国家資格の取得を目標としています。また博士課程では、経済学博士の学位の取得を目標として、その実現に必要なカリキュラム・科目を充実させています。歴史、理論、政策という経済学の3分野を重点的に研究できるようにカリキュラムを編成しつつ、実務的な分野をも意識した編成となっています。税理士界で活躍する修了生を多数輩出しています。

経営学研究科

■経営学専攻(修士・博士課程)
研究科長 町田 耕一

世田谷

新しいビジネスや組織を ダイナミックに構想できる人材を育成

現代はヒト、モノ、カネ、情報・知識といった経営資源をグローバルに活用してビジネスを展開する時代です。本研究科は、この時代を生き抜くための幅広い視野や教養を備え、柔軟で豊かな発想力を持って、新しいビジネスや組織をダイナミックに構想できる人材の養成を目指しています。具体的には、学部教育の延長線上に修士課程を位置づけ、専門的な知識の習得を図っています。さらには、資格取得を視野に入れ、幅広くビジネス分野で活躍できる有為な人材の養成にも努めています。そのため、本研究科には社会人やアジア諸国からの留学生も多数在籍しています。

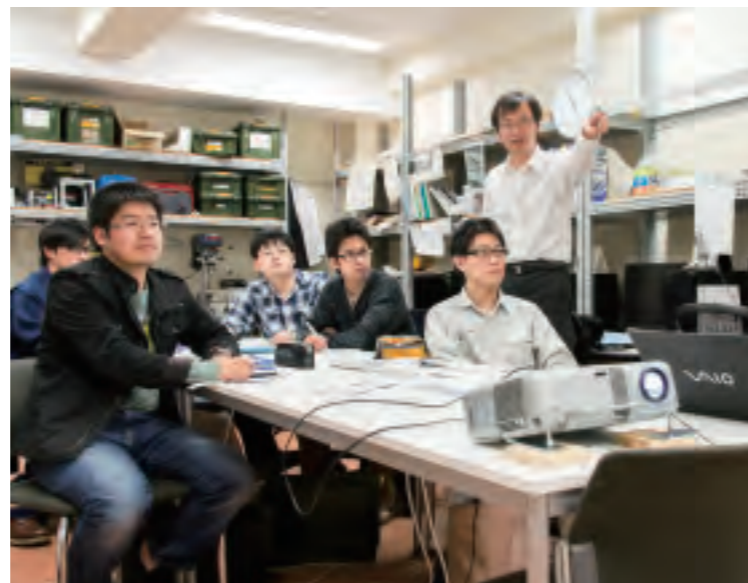
スポーツ・システム研究科

■スポーツ・システム専攻(修士・博士課程)
研究科長 角田 直也

多摩

現代社会が求める 体育・スポーツの専門職業人を養成

「スポーツ教育コース」と「スポーツ科学コース」を設置しています。競技スポーツから生涯スポーツまで多種多様なスポーツ事象を研究対象としており、各自の興味・関心に沿った研究・学習が可能です。日本のみならず、世界各国・地域が抱えるスポーツ教育、学術に関する諸問題を系統的に捉え、それを解決できる高度職業人と専門能力を有する学識豊かな研究者を養成しています。さらにコーチングの高度な技術や知識を有した人材及び教育、学術など、現代社会が求める体育・スポーツの専門職業人として活躍することができる人材の養成を目指していきます。



工学研究科

■機械工学・電気工学・建設工学専攻(修士課程)
■応用システム工学専攻(博士課程)
研究科長 西原 公

世田谷

科学技術社会を幅広く支える 創造性豊かな高度職業人を養成

現代社会は、日常生活のあらゆる場面で科学技術と密接なつながりを持っています。工学の領域においても各分野ごとに高度化が進み、より深い学識と専門的な技術・能力が求められています。本研究科はこうしたニーズに応えるため各専攻に研究分野の柱として専門コースを設け、修士課程においては科学技術社会を幅広く支える創造性豊かな技術者・研究者の養成を目指しています。博士課程では、科学的知識とそれを展開する能力を身につけ、独創性に富む高度な研究能力をもって社会に貢献できる人材の養成を図っています。



総合知的財産法学研究科

■総合知的財産法学専攻(修士課程)
研究科長 飯田 昭夫

世田谷

知的財産の創造・保護・活用及び 紛争処理能力を養成

急速な技術革新や企業活動のボーダーレス化に伴い、特許権侵害など知的財産紛争の件数は増加傾向にあります。本研究科は、こうした問題に対処できるように、独創的なアイデアなど成果物の権利を適切に保護したり、適正な権利の活用や新たな成果物を創造できる知的財産プロフェッショナルの養成を目指しています。知的財産分野を扱う大学院の多くが工学をベースにしていますが、本研究科は法学をベースにしています。「法学教育」を基礎に、知的財産を経営レベルでとらえるための「経営学」と知価を見いだすための「工学教育」を融合させています。

人文科学研究科

■人文科学専攻(修士・博士課程) ■教育学専攻(修士・博士課程)
研究科長 鷲野 正明

世田谷

人文科学諸分野における より高度な研究能力を養成

人文科学研究科は、本学文学部のカリキュラムを基本にしており、人文科学専攻と教育学専攻の2つのプログラムで構成されています。それぞれが人文科学の諸分野の研究を極めるべく、修士課程と博士課程を開設しています。人文科学専攻では「日本・東洋史学」「日本・東洋文学」「地理・地域論」などの分野を、教育学専攻では「教育学」「教職研究」などの分野が履修できるようになっています。修士課程では研究能力開発とともに時代の要請に応える高度な知見を身につけた職業人の養成を、博士課程では学識豊かな研究者の養成を図っています。

救急システム研究科

■救急救命システム専攻(修士・博士課程)
■救急救命システム専攻(修士課程/1年コース)
研究科長 島崎 修次

多摩

世界に通じる 病院前救急医療従事者を養成

本研究科は博士課程に救急救命システム専攻、修士課程に救急救命システム専攻と救急救命システム専攻(1年コース)を設けています。病院前救急医療を学問体系化して世界に通じる医療従事者を養成すること、救急救命士を教育するための実技スキルや医学的知識などを身につけること、救急医療分野を支える専門性の高い職業人を養成することを目標として世界に先がけて2010年に開設されました。本研究科は、病院前救急医療体制における多種多様な事象を研究対象とし、救急救命要請の多様化に対応すべく、あらゆるフィールドで活躍する救急救命士のスキルアップや医学的知識の再構築に努めています。

法学研究科

■法学専攻(修士・博士課程)
研究科長 高橋 敏

世田谷

より高度な法理論及び 実務理論を研究・取得する

現代社会は、社会経済環境の複雑化・情報化・国際化に伴い、特殊で複雑な分野横断型の法律問題が提起される機会が増大しています。本研究科は、研究者養成に加え、こうした問題に対応できるよう、時代の要請に応じて最新の法知識や交渉能力を備えた人材や、専門的な法理論や実務理論を研究して法的業務に従事する高度職業人を養成することを目指しています。また、すでに税務・登記・財産管理・家庭・少年問題などの法的職業従事者も社会人学生として積極的に受け入れ、より高度な法理論的な事務処理能力を身につけられるよう指導しています。

グローバルアジア研究科

■グローバルアジア専攻(修士課程)
■グローバルアジア研究専攻(博士課程)
研究科長 小口 和美

町田

アジアで活躍する高度職業人と 先端研究の専門家を養成

グローバルアジア研究科は、グローバル化が進行するアジア地域を研究対象の中心とし、経済学・経営学・歴史学・日本語教育・地域文化・文化研究・考古学・文化遺産学など様々な学問領域との連携・融合を図りながら、総合的かつ先端的な研究を行っています。この総合的かつ先端的な視野・視点に基づき、修士課程ではアジアを中心に世界で活躍する実践的な人材の養成を、博士課程では先端的研究の専門家の養成を目指しています。本研究科は、21世紀アジア学部とアジア・日本研究センター、イラク古代文化研究所の学内3機関の連携のもとに教育・研究を進めています。

中学校・高等学校

中学・高校の6年間は、心身の成長とともに、個性や感性を磨く大切な時期です。国士館中学校・高等学校では、中高一貫教育システムにより、学力の向上だけでなく、「こころの教育」を重視。礼儀作法や倫理・道徳観などを身につけながら、社会生活に必要な「生きる力」を養います。

校長挨拶



国士館中学校・高等学校 校長
川野 一成

かわの・かずなり

1944年生まれ、福岡県出身。1966年国士館大学体育学部卒業

1966年国士館中学校・高等学校教諭として入職、高等学校柔道部を指導

1985年中学校柔道部を設立し監督となり、その後、中学校・高等学校柔道部総監督。その間、中学校・高等学校で幾多の全国制覇を遂げたほか、多くの一流アスリートを育て上げ、全日本選手権・世界選手権・オリンピックにおいて多数のメダリストを輩出

1992年高等学校体育連盟柔道部顧問

2002年国士館中学校・高等学校副校長を経て、2004年同校校長に就任、同年より学校法人国士館評議員

2007年国士館スポーツ振興会会長

2014年全国私立通信制高等学校協会会長、東京私立中学高等学校協会定時制通信制部会長

国士館中学校・高等学校は「読書・体験・反省」の三綱領を実践し「思索」することで「誠意・勤労・見識・気魄」の四徳目を涵養することを教育理念に掲げています。三綱領は今で言う「PDCA」(Plan Do Check Action)にあたります。国士館の創立者をはじめとする先人たちは1917年の創立時に、既にこの法則を取り入れていたのです。

中学・高校で過ごす6年間は、健全な心身を育むうえでとても大切な時期です。本校が一貫して取り組んでいる武道教育により、人としての振る舞いの基本、つまり、人に対する接し方や礼儀作法の習得、あるいは心身の鍛錬によって「生きる力」を養っていくことを目指しています。

また、経済状況や価値観が目まぐるしく変化する時代にあって、「自ら学ぶこと」「体験を重ねること」でゆるぎない自己の確立と柔軟な対応力が身につくものと考えています。高等学校においては多彩なコース制、豊富なカリキュラムを揃え、中学校においては基礎学力の向上と心の教育を重視したカリキュラムを編成し、バランスのとれた人間形成を重視した教育を行っています。

将来の方向性を見極め、自らの夢へアプローチする第一歩として、中学・高校での生活は重要です。本校で得た知識やさまざまな体験を通して人に対する思いやりの心を醸成し、「生きる力」として育むとともに、その力を未来に向けて進むための原動力とし、生徒自身が自らの適性を伸ばし、磨けるようサポートします。情熱がないところには何も生まれません。私たちは愛情と情熱を持って、生徒一人一人の能力を最大限に発揮できるよう環境を整えていきます。それが本校の使命であると考えています。

本校は平成25年に「国士館中学部」創設から90周年を迎えました。また、3年後の平成29年には、学校法人国士館が創立100周年の佳節を迎えます。これまでの実績をふまえて、新たな出発点として更なる発展に向け教育活動に邁進する所存です。

中学校



基礎学力の向上と心の教育を 視野に入れたカリキュラム

人格や能力の基礎が養われる大切な中学校時代。本校では、中高一貫制によるゆとりある教育システムにより、生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばすことができるよう、万全の体制で教育に取り組んでいます。カリキュラムは、基礎学力と情操教育を視野に入れて編成。中でも、武道や書道、道徳を授業に取り入れることで、礼儀作法や倫理・道徳観、協調性などの習得を目指しています。また、国際化社会に対応するための英語力養成にも重点をおいています。



高等学校



社会で活躍する人材の育成を目指す

高校の3年間は、希望する進路を見定め、その実現に向けての実力を養ううえで重要な発展期間となります。生徒一人ひとりの適性を伸ばし、育む教育を目指して学習指導と生活指導の充実を図っています。中学で培った基礎力をベースに学力・体力・精神力、そしてバランス感覚を備えた、「生きる力」を育みながら、それぞれの個性と可能性を引き出すことを重視。知識を詰め込むだけでなく、社会に貢献する人材の育成を目標に、自ら考え、伸ばしていける環境づくりを行っています。

■全日制課程 普通科

個性を引き出す多彩なコース制

生徒自身が自らの適性を伸ばし、目標を達成できるよう多彩なコース制、豊富なカリキュラムをそろえています。1年次には徹底して基礎力を養成し、2年次には文系・理系を含めた4つのコースから進路を選択します。いずれのコースにも、カリキュラムの中に人間教育の一環として武道(柔道・剣道)、芸術(音楽・美術・書道)を組み入れています。また、月曜日から金曜日の放課後にはより高い学習力の向上を図るための学習サポートの時間を設けています。

■定時制課程 普通科

通信制や大学の講義も受講可能な柔軟なシステム

午後1時始業の昼型3年制、週5日制、2学期制、単位制、クラス制を採用しています。英語を中心とした基礎学力の向上を重視し、通信制課程の授業が受けられる定通併修や国士館大学1・2年次の講義を受けられる高大連携など、柔軟性のあるシステムを取り入れています。

■通信制課程 普通科(AAコース・ICコース)

自分に合った選択が可能な2つのコース

4学期制、年4回の単位認定、74単位以上の修得が卒業条件となる単位制を採用。6週間のスクーリングを行うAAコース、毎学期スクーリングを1週間に集中させることで自由な時間をスポーツや芸能活動などに充てることのできるICコースの2種類のコースから選択でき、自分のペースで学ぶことが可能です。転入学の場合は、単位修得状況により前籍校の高校生と同年度に卒業することも可能です。

研究

国士館はユニークで水準の高い研究機関を有しており、専門分野をより深く多角的に研究しています。産官学の連携を重視し研究交流の場を提供しています。

イラク古代文化研究所

町田



イラクを中心にユーラシア文化を研究・調査

イラクを中心とするユーラシアの古代文化を解明する目的で1976年に設立。イラク各地の調査を通じて研究成果を挙げてきました。1990年以降、「湾岸戦争」「イラク戦争」と報じられる一連の地域紛争のため現地での調査活動は中断していますが、ヨルダン政府の協力を得てユネスコによるイラクの文化遺産環境の復興に貢献しています。ヨルダンのほか、シリア、イラン、キルギスタンでのフィールドワーク、学際的な共同研究や国際交流、さらに大学院教育など、多岐にわたる活動も続けており、これらの成果は、研究所紀要『ラーフィダーン』をはじめ多くの出版物やウェブサイトを通じて発信され、海外の学界でも高い評価を得ています。

武道・徳育研究所

世田谷



武道の研究を通じて人間学を実践・普及

日本の伝統文化として今日に継承される武道の研究を通じ、文武不岐の人間学の実践・普及を目的として1978年に設置されました。真の日本人たる「国士」の養成機関として、建学の精神を重んじた研究機関です。日本文化の研究と継承、21世紀における武道の研究、講演会や研究会などの開催、『武徳紀要』『武・徳』『国士研究会』などの出版物の発行を主な活動としています。また、諸外国との交流や国内外における武道の指導をするほか、近年は障害者武道にも積極的に取り組み、世界平和に貢献し得る人材の育成方法を探究しています。

アジア・日本研究センター

町田



アジア地域の問題を究明し相互理解と共生を目指す

激動するアジアの社会的・文化的現象を学術的に究明し、開かれた研究交流の場を提供すべく2000年に設置された機関です。研究会やワークショップ、シンポジウムなどを開催することで、研究環境の活性化と有機的な研究者ネットワークの構築を目指しています。研究活動の成果は、ホームページ、紀要や出版物などの情報発信によって社会に還元しています。国際的な学術交流を推進するとともに、アジア地域の相互理解と平和的共生に向けた啓蒙活動や政策提言などへと活動を発展させていくことを目標としています。

防災・救急救助総合研究所

多摩



災害・救急教育、研究を通じて地域の防災の取り組みを支援

未曾有の災害となった2011年3月11日の東日本大震災では、発生直後より本学教職員や学生ボランティアが医療あるいは復興支援など幅広い支援活動を行い、国士館大学の災害支援機関としての社会的認知度を高めました。2012年に設置された当研究所は国内外における防災・救急救助に関する総合的研究や支援活動をはじめ、防災リーダーの育成や地域と連携した防災活動などを行っています。近い将来、首都直下型地震も危惧され、防災への意識が高まりつつある中、災害拠点大学の機能をもつ本学の研究所として新しいコンセプトのもと、システムの充実に取り組んでいきます。

ウェルネス・リサーチセンター

多摩



健康増進を図るための総合的な研究活動を実施

一般市民のウェルネス(広義の健康)の確立を目指して2004年に設置されました。高齢者の運動習慣育成プログラムの開発や救急医療研究、各種スポーツ・トレーニング効果の分析など、健康増進に関わる総合的な研究活動を行っています。これらの研究で得られたデータは、高齢者向けスポーツや介護機器の開発、教育方法の開発、指導者および運営者の育成などに役立てられています。また、地域と連携し、スポーツイベントのサポートや小中学生を対象としたキャンプスクール等の野外教育プログラム、健康セミナーも開催しています。



研究

図書館・情報メディアセンター



-  ■ 中央図書館・情報メディアセンター
教育用端末室 10室
-  ■ 鶴川図書館・情報メディアセンター
教育用端末室 2室
-  ■ 多摩図書館・情報メディアセンター
教育用端末室 2室

蔵書数 図書:897,790冊 教育用端末室 全14室
雑誌:9,357種類

学術情報サービスの高度化と学修サポートの強化を目指す知的拠点

国士館大学図書館・情報メディアセンターを構成する中央図書館・情報メディアセンター、鶴川図書館・情報メディアセンター及び多摩図書館・情報メディアセンターでは、時代が求める情報リテラシー、すなわち自己や組織に必要な情報を理解し、収集し、分析し、そして発信する力を養うため、統合学習環境を提案し学術情報サービスの高度化を図っています。

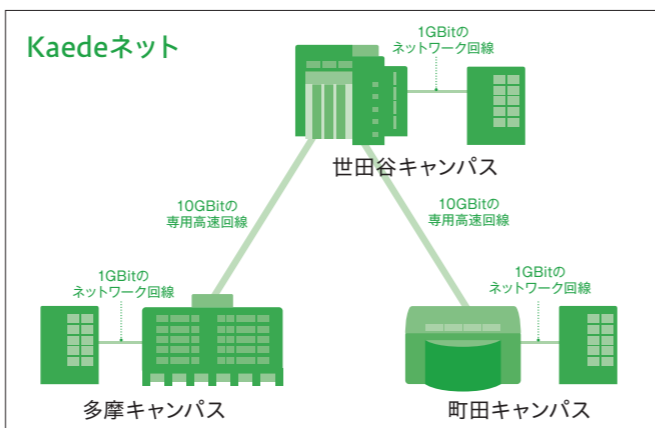
図書・雑誌の所蔵数は約90万冊、パソコン200台が利用できます。これらはすべてインターネットと接続され、学内外のデータベース、eジャーナル及び学術リポジトリ「kiss」等の利用が可能です。また、各図書館の開館時間の拡大、地域住民の図書館利用または教育用端末室のオープン利用及び24時間365日利用できる情報端末機を設置するなど利用向上を図っています。

教育用端末室においては、約800台以上の端末を設置し、半数は仮想デスクトップ配信システム(シンクライアントシステム)の環境を整えています。

学術情報サービスの高度化を目指し、本学の収蔵学術資源検索であるOPAC及び論文・講義資料等約8,000件を搭載した学術リポジトリ「kiss」をクラウドシステムへ移築したことにより、モバイル機器の利便性が活用できると共に災害時における教育研究支援の継続性も保障されています。

知的生産物を生み出す環境として、静かで落ち着いた閲覧環境、グループ学習、視聴覚環境あるいはリフレッシュ環境などを実現しています。一方、デジタルコンテンツ制作機材としてスキャナー、大型カラープリンター及び画像編集機などを導入し、その支援要員を配置することで知的生産性の向上を図っています。

このほかに、国士館大学の基盤ネットワークである「Kaedeネット」を構築・運用し、教育研究を強力に支援しています。また、無線LANのアクセスポイントを100台以上設けるなど、教育研究に多面的支援を行っています。



国際交流センター



学術交流、海外派遣、研修受け入れの拠点

国際交流センターは、設立以来、国際社会に対する教育研究活動を通じた学術交流や、学生の海外派遣・研修、外国人留学生の受け入れなどを積極的に行っています。現在、本学は約600人の外国人留学生が在籍しています。本センターは国際交流課と留学生支援課の2課で構成されています。国際交流課は、世界各国の海外協定校(研修校含む)45大学1研究機関との学術交流や、その他、海外教育・研究機関との交流窓口となり、本学学生の海外留学に際しても、安全かつ安心な海外生活を送ることができるよう、全面的に支援を行っています。留学生支援課は、外国人留学生に対して、在留、住宅や医療、奨学金等についての情報提供や相談業務、諸手続きのサポートを行い、安心して勉強に専念できるよう支援しています。



生涯学習センター



学生のスキルアップと市民向けの講座を実施

本学の研究成果や教育機能を広く社会に提供し、学生はもとより一般市民の教育・芸術・学術・文化の発展に貢献することを目的に誕生しました。世田谷・町田・多摩の各キャンパスに事務室を設置してさまざまな事業を展開しています。学生の就職を視野に入れたスキルアップのための「資格講座」や、幼児からシニアまで幅広い層を対象にした地域貢献を目的とする「公開講座」を開講。さらに、本学を含めた世田谷区内の4大学と世田谷区教育委員会との協働によるeラーニング方式の生涯学習講座「せたがやeカレッジ」も展開しています。

事業展開

■ 資格講座

各専門学校と提携し、学生のスキルアップと就職のための資格講座を開講しています。資格講座は簿記、パソコン、行政書士、TOEIC®など多岐にわたり展開しています。毎年それぞれの講座から一定の合格者を輩出しています。

■ 公開講座

幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方が参加できる講座を開講しています。講座は4月から始まる春期、9月から始まる秋期、1月から始まる冬期の3期に分かれ、教養・語学・歴史・パソコン・芸術・健康・スポーツ・武道を開講しています。

■ せたがやeカレッジ

本学を含めた世田谷区内の4大学と世田谷区教育委員会が協働して発信する、eラーニング方式の生涯学習サービスです。「いつでも・どこでも・楽しく学べる」生涯学習の実現に取り組んでいます。

キャリア形成支援センター



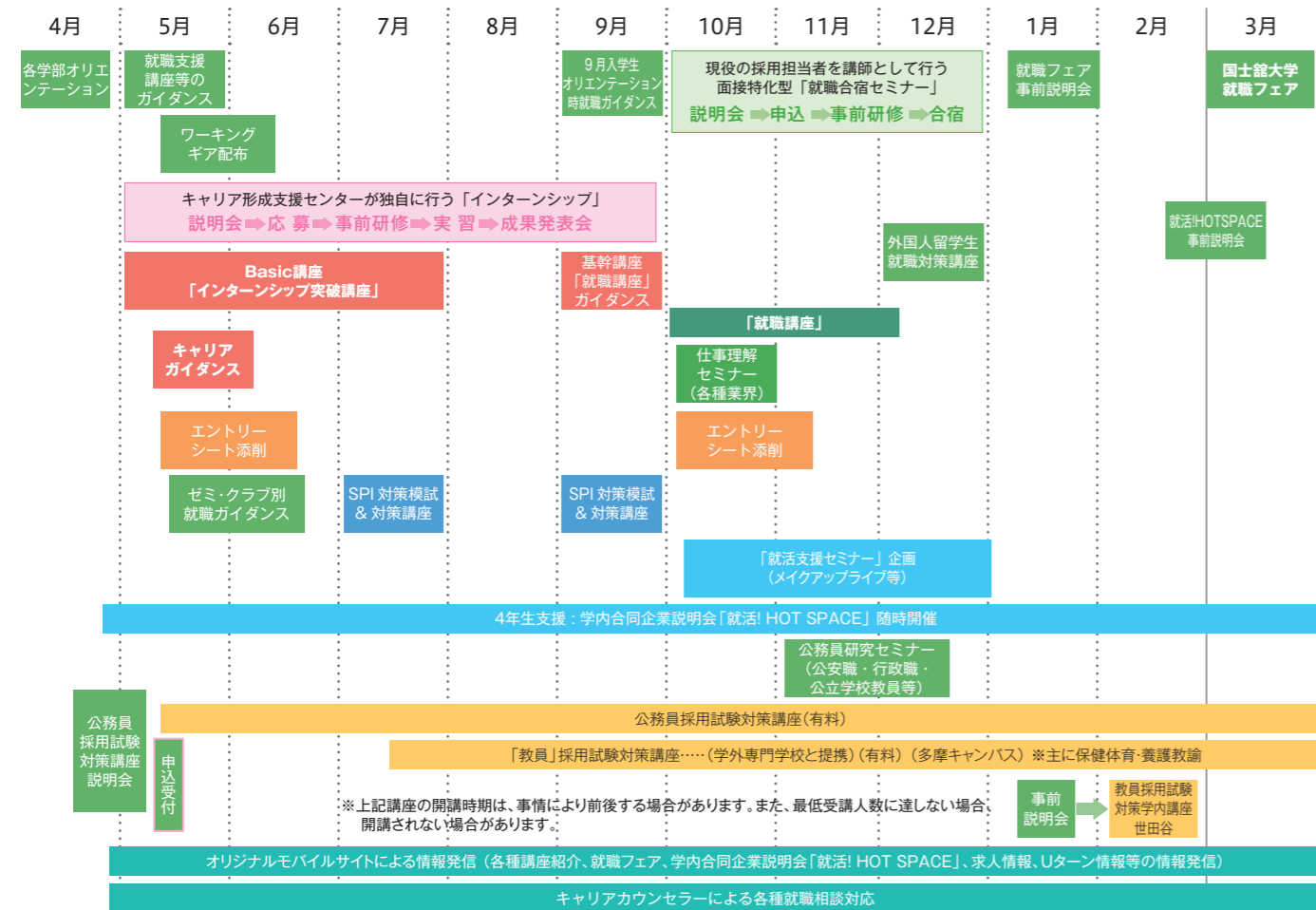
キャリア教育を教育課程の中に位置づけて実施

今、大学に求められているのは、学生が将来への目的意識、職業観を持って主体的に進路選択できる能力を育成する「キャリア教育」です。キャリア教育を教育課程のなかに位置づけて実施するため、各学部との調整・連携機能を備えた体制をとっています。「就活! HOT SPACE (学内合同企業説明会)」などのイベントや、モバイルサイトの運営でも、学生の就職活動をサポート。世田谷、町田、多摩の各センターには、インターネット端末、就職対策本、就職情報誌、企業情報、求人情報など就職に関するあらゆる情報を完備。就職活動における不安や悩みを相談できるスタッフも常時待機するなど多角的な就職支援を行っています。

国士館大生のためのキャリア支援ブック
『Working Gear』(3年生向け)、
『Working Gear Jr.』(新入生向け)



平成26年度 就職活動支援スケジュール



学生相談室



学生相談室は、世田谷、町田、多摩の各キャンパスに設置されています。学生の生活面や学習面における相談への助言、指導から、人間関係やその他のあらゆる悩みに対してカウンセラーと精神科医によるサポートを行っています。また、女性カウンセラーが対応する相談日も設けて来室しやすい環境を整えています。電話及びFAXでの予約申し込みも行っています。

健康管理室

健康管理室は、世田谷、町田、多摩の各キャンパスに設置され、学生や教職員が日々健康に過ごすために、健康相談や診察などを無料でを行っています。月曜日から土曜日まで開室し、学校医は各キャンパスにそれぞれ週2日在室。病気やけがの応急処置から、他の医療機関への紹介も行います。また、毎年、学生・教職員を対象とした健康診断を実施し、病気の早期発見と予防に努めています。

奨学金制度

国士館大学では、修学意欲の高い学生に対する経済的な支援として、本学独自の制度をはじめ、下記のような奨学金制度を用意しています。

学内の奨学金制度

成績優秀奨学生

デリバリー入学試験、C方式入学試験1期(大学入試センター試験利用)の受験者のうち、成績上位者の中から選考されます。

学業優秀奨学生

在学生の中で、総合成績が特に優秀な者から選考されます。(外国人留学生・新入生を除く)

修学援助奨学生

次のいずれかひとつに該当し、その事由が入学手続き後に生じた者で、学業成績が優秀な者の中から選考されます。(外国人留学生を除く)

- 1 家計支持者が、死亡又は後遺障害のため納入金の支払いが困難と認められる者。
- 2 家庭が経済的に困窮し、生活保護法による保護家庭またはこれに準ずると認められる者。

運動技能優秀奨学生

入学を希望する者の中で、本奨学制度に申し、各種スポーツの全国大会もしくは国民体育大会において、優勝または入賞した者およびこれと同等の技能を有する者の中から選考されます。

外国人留学生奨学生

外国人留学生の中で、成績・人物・面接等を考慮の上、選考されます。

学外の奨学金制度

日本学生支援機構奨学金

地方公共団体・民間団体奨学金

学生寮



本学では、学生が学業やクラブ活動に専念でき、安全で快適な生活を送れるよう、住居に関するサポートを行っています。学生寮はいずれも各キャンパスに近く、通学にも便利です。

■世田谷寮

男子厚生寮で、若林公園に隣接した静かな環境の全室個室となっています。定員は36名。

■鶴川寮

男子厚生寮は定員12名、女子厚生寮は定員32名の個室となっているほか、スポーツ系の部に在籍する学生262名が生活できる2人部屋の合宿寮があり、いずれも町田キャンパス内にあります。

※世田谷寮・鶴川寮は耐震補強工事のため利用は来春以降

■国士館大学ゲストハウス(留学生寮)

留学生向けの寮として2004年に完成。大学院留学生及び交換留学生男女28名が生活できます。全室個室、最新のセキュリティを備え、安心して生活できる環境を整えています。

組織

教育研究組織図

大学

- 政治学研究科 政治学専攻(修・博)
- 経済学研究科 経済学専攻(修・博)
- 経営学研究科 経営学専攻(修・博)
- スポーツ・システム研究科 スポーツ・システム専攻(修・博)
- 救急システム研究科 救急救命システム専攻(修・博)／救急救命システム専攻(1年コース)(修)
- 工学研究科 機械工学専攻(修)／電気工学専攻(修)／建設工学専攻(修)／応用システム工学専攻(博)
- 法学研究科 法学専攻(修・博)
- 総合知的財産法学研究科 総合知的財産法学専攻(修)
- 人文科学研究科 人文科学専攻(修・博)／教育学専攻(修・博)
- グローバルアジア研究科 グローバルアジア専攻(修)／グローバルアジア研究専攻(博)

政経学部

■政治学科

■経済学科

■経営学科 ※2011年度から募集停止

体育学部

■体育学科

■武道学科

■スポーツ医科学科

■こどもスポーツ教育学科

理工学部

■理工学科 機械工学系／電子情報学系／建築学系／まちづくり学系／健康医工学系／基礎理学系

法学部

■法律学科

■現代ビジネス法学科

文学部

■教育学科 教育学専攻／倫理学専攻／初等教育専攻

■史学地理学科 考古・日本史学専攻／東洋史学専攻／地理・環境専攻

■文学科 中国語・中国文学専攻／日本文学・文化専攻

21世紀アジア学部

■21世紀アジア学科

経営学部

■経営学科

附属施設等

■国際交流センター

■図書館・情報メディアセンター

■健康管理室

附置研究所等

■イラク古代文化研究所

■武道・徳育研究所

■防災・救急救助総合研究所

■アジア・日本研究センター

■生涯学習センター

■ウェルネス・リサーチセンター

■全日制課程

■定時制課程

■通信制課程

高等学校

中学校

事務組織図

学校法人 国士館

- 理事長室
 - 企画課
 - 広報課
 - 国士館創立100周年記念事業推進課

法人事務局

- 総務部
 - 総務課
 - 人事課
- 財務部
 - 経理課
 - 管財課
 - 健康管理室
 - 町田校舎事務課
 - 学部学科等設置申請事務課

■監査室

■募金事務室

■国士館史資料室

国士館大学

- 学長室
- FD推進室
- 教務部
 - 教務課
 - 学術研究支援課
 - 大学院課
- 学生部
 - 学生・厚生課
 - 寮務課
- 入試部
 - 入学課
- キャリア形成支援センター
 - キャリア支援課
- 学部
 - 各学部事務室
政経学部 体育学部 理工学部
法学部 文学部
21世紀アジア学部 経営学部
- 国際交流センター
 - 国際交流課
 - 留学生支援課
- 図書館・情報メディアセンター
 - 事務管理課
 - 第1情報サービス課
 - 第2情報サービス課
 - 情報システム課
- 附置研究所等
 - イラク古代文化研究所事務室
 - 防災・救急救助総合研究所事務室
 - アジア・日本研究センター事務室
 - 生涯学習センター事務室

国士館高等学校

■高等学校事務室

国士館中学校

■中学校事務室

組織

教職員数

		教員		職員		
		専任	その他	専任	その他	
法人	理事長室			2	1	
	企画課			4		
	広報課			4	1	
	国土館創立100周年記念事業推進課			2		
	法人事務局			2		
	総務部			1		
	総務課			5	1	
	人事課			7		
	財務部			1		
	経理課			7	1	
	管財課			5	1	
	健康管理室			3	8	
	町田校舎事務課			5	1	
	学部学科等設置申請事務課			1		
	監査室			2	1	
	募金事務室			2		
	国土館史資料室			2	3	
	計			55	18	
	大学	学長室			3	
		FD推進室			3	
教務部				1		
教務課				13	13	
学術研究支援課				2	1	
大学院課				6	4	
学生部				2		
学生・厚生課				13	18	
寮務課				1	4	
入試部				1		
入学課				12		
キャリア形成支援センター				1		
キャリア支援課				9	7	
大学院				87		
政経学部		47	122	11		
体育学部		64	104	13	3	
理工学部(工学部)		48	147	18	7	
法学部		39	87	9	2	
文学部		62	123	9	1	
21世紀アジア学部		32	63	9	2	
経営学部		19	58	5	2	
国際交流センター						
国際交流課				4	2	
留学生支援課				6	1	
図書館・情報メディアセンター				1		
事務管理課				3		
第1情報サービス課				2		
第2情報サービス課				3		
情報システム課				6		
防災・救急救助総合研究所				1	1	
アジア・日本研究センター				1	1	
生涯学習センター				4	3	
イラク古代文化研究所		7		1	1	
武道・徳育研究所	2					
ウエルネス・リサーチセンター						
計	320	791	173	73		
高等学校	全日制	32	20	3	6	
	定時制	14	11	1	1	
	通信制	11	10	1		
中学校		11		1		
	計	68	41	6	7	
研究科助手、実習助手、教務助手				23		
合計	388	832	234	121		

*兼務、派遣を除く

役員・役職者等(2014年6月2日現在)

役員

理事長

大澤英雄

理事

三浦信行

清水敏寛

瀬野 隆

田代博司

山田慎吾

岡林中今

天羽敬祐

石田唱司

佐伯弘治

南 克之

監事

今福康夫

間瀬誠吾

顧問

若林克彦

評議員

三浦信行

川野一成

川田儀博

小山泰文

清水敏寛

瀬野 隆

田代博司

中島 徹

福田 勇

柴田則夫

福本正幸

矢嶋宏一

山田慎吾

岡林中今

加藤純一

小泉與七

谷岡三男

脇本三千雄

黒羽亮一

佐伯弘治

坂本廣身

清水 司

三田和夫

国土館大学

学長

三浦信行

副学長

岡田 繁

中島 徹

大学院研究科長

政治学研究科……………佐藤圭一

経済学研究科……………藤本公明

経営学研究科……………町田耕一

スポーツ・システム研究科……………角田直也

救急システム研究科……………島崎修次

工学研究科……………西原 公

法学研究科……………高橋 敏

総合知的財産法学研究科……………飯田昭夫

人文科学研究科……………鷲野正明

グローバルアジア研究科……………小口和美

学部長

政経学部……………青木俊介

体育学部……………川田儀博

理工学部……………二川佳央

法学部……………福永清貴

文学部……………石橋崇雄

21世紀アジア学部……………横沢民男

経営学部……………白銀良三

附属施設・附置研究所長等

国際交流センター……………樋田 満

図書館・情報メディアセンター……………清水敏寛

イラク古代文化研究所……………岡田保良

武道・徳育研究所……………三浦信行

防災・救急救助総合研究所……………島崎修次

アジア・日本研究センター……………柴田徳文

生涯学習センター……………西野泰広

ウエルネス・リサーチセンター……………村岡幸彦

国土館高等学校・中学校

校長……………川野一成

副校長……………福田三郎





Setagaya

最先端設備が集まる国士館のメイン・キャンパス
渋谷・新宿から30分の立地ながら、静かな学びの環境

世田谷キャンパス

大学院 政治学研究科／経済学研究科／経営学研究科／工学研究科／法学研究科／総合知的財産
法学研究科／人文科学研究科
学部 政経学部／理工学部／法学部／文学部／経営学部

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1
TEL 03-5481-3111 (代表)

国士館中学校・高等学校
〒154-8553 東京都世田谷区若林4-32-1
TEL 03-5481-3114 (中学校代表)
TEL 03-5481-3131 (高等学校代表)

土地面積 56.602m²
建物面積 109.240m²



Machida

東京・町田の丘陵に広がる、緑が爽やかなキャンパス

町田キャンパス

大学院 グローバルアジア研究科
学部 21世紀アジア学部／体育学部(こどもスポーツ教育学科)

〒195-8550 東京都町田市広袴1-1-1
TEL 042-735-3111 (代表)

土地面積 89.832m²
建物面積 35.608m²

- a** 正門受付
- b** 中央図書館
図書館・情報メディアセンター/
多目的ホール
- c** 1号館
理事長室／理事室／企画課/
総務課／人事課／経理課／管財課/
監査室／情報システム課/
学生ラウンジ／学生食堂
- d** 大講堂
- e** 5号館
学長室／副学長室／学部長室/
FD推進室／教務課/
学術研究支援課／学部事務室(政経
学部・理工学部・法学部・文学部・経
営学部)／研究室／教室/
実験・実習室
- f** 6号館
書店／文具店／研究室／教室
- g** 7号館
国際交流センター/
国際交流ルーム／研究室／教室/
実験・実習室
- h** 8号館
広報課/
国士館創立100周年記念事業推進課/
大学院課／入学課/
キャリア形成支援センター/
研究室／教室／実験・実習室/
学生食堂
- i** 10号館
募金事務室／多目的フロア／研究室/
教員コミュニティルーム／教室/
実験・実習室
- j** 24号館
高等学校定時・通信制教員室/
事務室／教室／武道・徳育研究所/
クラブ部室／世田谷寮
- k** 高等学校・中学校校舎
校長室／教員室／事務室/
保健室／図書館／教室
- l** グラウンド
- m** 体育・武道館
剣道場／柔道場／アリーナ/
スカイコート／トレーニングルーム
- n** メイプルセンチュリーホール
フィットネスセンター／温水プール/
柔道場／剣道場／ランニングロード/
アリーナ／多目的フロア／教室/
理工学部実習室／理工学部実習工場/
大学院実習室／学生ラウンジ/
理・美容室
- o** 柴田会館
国士館史資料室/
国士館史資料展示室／研修室/
空手道場／同窓会事務局
- p** 国士館大学
地域交流文化センター
生涯学習センター/
イラク古代文化研究所展示室/
実験・実習室
- q** 34号館(梅ヶ丘校舎)
学生・厚生課／学生相談室/
健康管理室／研究室/
教員コミュニティルーム／教室/
実験・実習室／学生食堂/
スカイラウンジ／アトリウム/
展示ルーム
- r** クラブ部室
- s** ハイテク・リサーチ・センター棟
- t** 学園祭実行委員会室
- u** 国士館大学ゲストハウス

- a** 正門受付
- b** 中央広場
- c** 11号館
健康管理室／学生相談室
- d** 12号館
大学院課／イラク古代文化研究所/
アジア・日本研究センター/
研究室／教室／実験・実習室/
学生食堂／鶴川寮
- e** 13号館
キャリア形成支援センター／教室
- f** 14号館
学部事務室(体育学部こどもスポーツ
教育学科)／教室／実験・実習室
- g** 15号館
管理室／教室／プール
- h** 30号館
学部長室／学部事務室(21世紀アジア
学部)／学生ラウンジ／研究室/
教室／実験・実習室
- i** 野球場
- j** クラブ部室A棟
- k** 第2柔道場
柔道場／トレーニングルーム
- l** 第3体育館
剣道場／柔道場／アリーナ
- m** 第4体育館
アリーナ
- n** 鶴川メイプルホール
町田校舎事務課／教務課/
生涯学習センター/
図書館・情報メディアセンター/
学生食堂
- o** 学園祭実行委員会室
- p** 文具・写真店
- q** テニスコート
ゴルフ教場／弓道場
- r** 多目的グラウンド
- s** 多目的グラウンド管理棟
- t** 仮設教室棟
学生・厚生課／国際交流センター



本学の情報を学校案内や大学新聞など、さまざまな発行形態の出版物で情報提供しています。



Tama

最新の各種スポーツ施設が整う広大なキャンパス

多摩キャンパス

〒206-8515 東京都多摩市永山7-3-1
TEL 042-339-7200 (代表)

土地面積 162,394m²
建物面積 23,527m²

大学院 スポーツ・システム研究科/救急システム研究科
学部 体育学部(体育学科・武道学科・スポーツ医科学科)

- a** 教室・管理棟
正門受付/学部長室/
学部事務室(体育学部)/
学生・厚生課/大学院課/
図書館・情報メディアセンター/
健康管理室/実験・実習室/
学生相談室/研究室/教室
キャリア形成支援センター/
生涯学習センター
- b** 体育館棟
多目的フロア/体操場/
トレーニングルーム/レスリング場/
アリーナ1・2/教室
- c** 武道棟
柔道場/剣道場
- d** 教室・研究棟
談話室/研究室/教室
- e** 教室・実習棟
防災・救急救助総合研究所/
研究室/教室/実験・実習室
- f** 食堂棟
学生食堂/売店
- g** ゼミ室・研究室棟
- h** 学園祭実行委員会室
- i** 相撲教場
- j** ラグビー・
アメリカンフットボール場
- k** 多目的グラウンド
- l** テニスコート
- m** 陸上競技場
- n** 管理A棟
- o** 管理B棟
- p** 管理D棟
- q** 野球場
- r** 多摩球心寮



国士館要覧
学校法人国士館の総合案内
年1回発行



大学案内
主に国士館大学受験生向け案内
年1回発行



中学校・高等学校案内
国士館中学校・高等学校の総合案内
年1回発行



大学院案内
主に国士館大学大学院受験生向け案内
年1回発行



大学新聞
本学の現況を記事形式で掲載
ブランケット版で年4回発行



大学案内
International Prospectus
海外向け大学案内
日本語・英語併記で年1回発行



企業向けリーフレット
企業採用担当の方向け大学案内
年1回発行



ウゴパン
国士館大学在学生向け情報誌
年5回発行

歴史 年表



国士館の創建を支えた人々

創立者
柴田 徳次郎 1890~1973

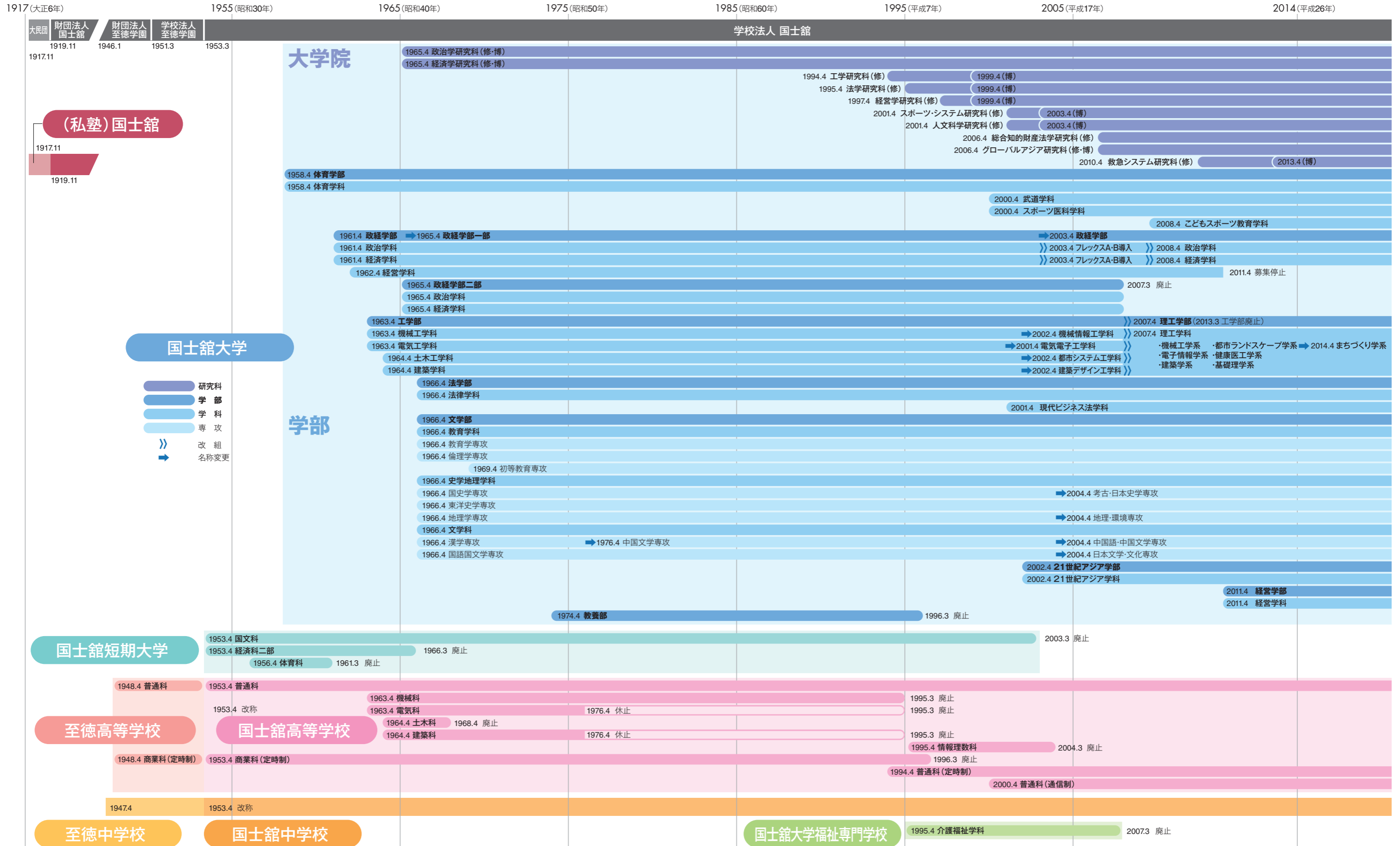
国士館創設の頃のわが国は、第一次世界大戦によって一時期、好景気となりましたが、反面、富山県の一漁村の主婦たちが起こした米騒動が、僅か10日あまりの間に全国各地に蔓延するなど、陰うつな世相でした。そのような時代に、柴田徳次郎、阿部秀助、花田大助、喜多梯一、上塚らの青年有志たちが「青年大民団」を結成します。大民団の目的は「言論」と「教育」をもって国家の繁栄と国民生活の

安穩に資することであり、「言論」では1916(大正5)年6月の雑誌「大民」創刊以来、1945(昭和20)年までよくその役割を果たしました。「教育」については、1917(大正6)年11月、東京・麻布に私塾「国士館」を開塾し、1919(大正8)年には世田谷に移って高等部、中等部と本格的な学校を設け、これを起点に今の総合大学国士館へと発展しました。

波瀾の時世、国士館の興隆を支えてきた人は少なくありませんが、先ず挙げなければならないのは、終生、学園経営の責を担ってきた創立者の功業と、国士館創建の四天王として知られる頭山満、徳富蘇峰、野田卯太郎、渋沢栄一存在です。また、中野正剛、緒方竹虎の名も国士館発展の歴史に深く刻みこまれています。

1917 大正6年	1919 大正8年	1923 大正12年	1925 大正14年	1926 大正15年	1929 昭和4年	1930 昭和5年	1942 昭和17年	1945 昭和20年	1946 昭和21年	1947 昭和22年	1948 昭和23年	1951 昭和26年	1953 昭和28年	1956 昭和31年	1958 昭和33年	1961 昭和36年	1962 昭和37年	1963 昭和38年	1964 昭和39年	1965 昭和40年	1966 昭和41年	1974 昭和49年		
東京・麻布に私塾「国士館」を創立	国士館高等部設置(昭和5年3月閉校) 財団法人国士館設置(現在地)	国士館中等部設置(大正14年3月閉校)	国士館中学校設置(昭和24年3月閉校)	国士館商業学校設置(昭和24年3月閉校)	国士館専門学校(国漢剣道科・柔道科)設置 (昭和30年3月閉校)	国士館高等拓殖学校設置 (昭和9年11月閉校認可)	国士館高等拓殖学校(滿蒙支科・南洋科)設置 (昭和20年12月閉校認可)	戦禍により校舎焼失	(至徳専門学校・至徳商業学校・至徳中学校となる) 名称を至徳学園に変更	至徳中学校(新制3年制)設置	新制4年制設置 至徳高等学校(全日制普通科)新制3年制、定時制商業科 至徳商業高等学校(新制3年制)設置(昭和24年3月閉校)	財団法人至徳学園から学校法人至徳学園に変更	国士館短期大学(2年制)設置 は至徳のまま、昭和30年3月閉校 高等学校、国士館中学校となる。専門学校 至徳学園を国士館の名称に復す(国士館)	短期大学に体育科(3年制)設置(昭和36年3月閉校) 41年3月閉校、国文科平成15年3月閉校 (国文科・経済科)設置(経済科)設置(昭和36年3月閉校)	体育学部(体育学科)設置 国士館大学設置	政経学部(政治学科・経済学科)設置	政経学部(経営学科)設置	工学部(機械工学科・電気工学科)設置(平成19年4月理工学部改組、平成25年3月閉校)	工学部に土木工学科・建築学科設置	太宰府校地取得(平成25年4月閉鎖)	政治学研究所・経済学研究所(各修士・博士)設置 国士館大学院設置	政経学部(政治学科・経済学科)設置(平成19年3月閉校) 政治学研究所・経済学研究所(各修士・博士)設置 国士館大学院設置	文学部(教育学科・史学地理学科・文学科)設置 法学部(法律学科)設置 鶴川校舎開設	教養部設置(平成8年3月解体)
大講堂完成		国士館中学校設置	国士館専門学校設置									国士館短期大学設置										鶴川校舎開設		
1992 平成4年	1994 平成6年	1995 平成7年	1997 平成9年	1998 平成10年	1999 平成11年	2000 平成12年	2001 平成13年	2002 平成14年	2003 平成15年	2006 平成18年	2007 平成19年	2008 平成20年	2009 平成21年	2010 平成22年	2011 平成23年	2013 平成25年	2017 平成29年							
体育学部移転 多摩校舎開設	(新校舎完成) 国士館中学校・高等学校男女共学制導入 大学院に工学研究科(修士)設置	(平成19年3月閉校) 国士館大学福祉専門学校設置 大学院に法学研究科(修士)設置	大学院に経営学研究科(修士)設置	国士館大学中央図書館完成	研究科に博士課程設置 大学院経営学研究科・法学研究科・工学研	高等学校に通信制課程設置 体育学部(武道学科・スポーツ医科学科)設置	工学部電気工学科を電気電子工学科に名称変更 研究科(修士・人文科学)研究科(修士)設置 法学部に現代ビジネス法学科、大学院にスポーツ・システム研	工学部電気工学科を電気電子工学科に名称変更 研究科(修士・人文科学)研究科(修士)設置 法学部に現代ビジネス法学科、大学院にスポーツ・システム研	工学部電気工学科を電気電子工学科に名称変更 研究科(修士・人文科学)研究科(修士)設置 法学部に現代ビジネス法学科、大学院にスポーツ・システム研	工学部電気工学科を電気電子工学科に名称変更 研究科(修士・人文科学)研究科(修士)設置 法学部に現代ビジネス法学科、大学院にスポーツ・システム研	国士館大学地域交流文化センター完成 研究科(修士・博士)設置 大学院に総合的財産法研究科(修士)、グローバルアジア	工学部を改組し理工学部理工学科設置	体育学部(こどもスポーツ教育学科)設置 世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎(34号館)完成	鶴川キャンパスを町田キャンパスに名称変更	大学院に救急システム研究科(修士)設置	経営学部経営学科設置	大学院救急システム研究科に博士課程設置 ホール完成 世田谷キャンパスにメイプルセンチュリー	国士館創立100周年						
多摩校舎開設	鶴川メイプルホール完成	国士館高等学校・中学校校舎完成	国士館大学福祉専門学校設置	国士館大学中央図書館完成								世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎(34号館)完成				メイプルセンチュリーホール完成								

設置学校の変遷



館歌・校章

国士館館歌

作詞 柴田徳次郎
作曲 東儀 鉄笛

一、霧わけ昇る陽を仰ぎ
梢こずえに高き月を浴び
皇国みくにに殉ゆるす大丈夫ますらおの
ここ武蔵野の国士館

二、松陰しょういんの祠しに節せつを磨まし
豪徳こうとくの鐘かね気を澄すます
朝あさな夕ゆふなにつく呼吸いきは
富嶽ふがく嵐あらしの天あまの風

三、区々うつしみ現身あまの粗薪あらかまきに
大覚だいかくの火ひを打ち点ともし
三世さんせい十方じっぽう焼き尽とす
至心ししんの焔ほのおあふらばや



国士館の歴史を今に伝える大講堂
(1919年建立・世田谷キャンパス)

校章 全学の総意で決めた「楓」



国士館が麻布 弁 町から、世田谷の松陰祠畔に移ったのは1919(大正8)年。そして、その前年、国士館創設の同人たちは揃って松陰神社に詣でています。激動の幕末期、思想家、教育者として峻烈な生きざまを貫き通した吉田松陰に寄せる彼らの崇敬の念は篤く、新生国士館を松下村塾の系譜を継ぐ学塾に育て上げたいと請い願ったのです。社の境内には大和魂を表す桜樹と、松陰の熱き血潮を彩った楓の古木があります。国士館高等部(現在の大学の前身)建学式の朝、初代館長であった柴田徳次郎は、朝日を受けて真紅に映える楓を見て松陰の赤心に思いを致し、楓を校章にと胸中ひそかに意を決したといえます。1920(大正9)年の春になって柴田館長は、その思いを国士学生会(学生の自治組織)に諮り、学生会もまたこれに賛同し、全学の総意によって、校章は「七生報国の士を象徴する七片の楓葉」と決まったのです。

シンボルマークについて



地球を意味する円弧に歴史と将来への希望を表わすエレメントが交差して、英文表記の「Kokushikan」のイニシャル「K」を象っています。多くの人間が集い、その文化や知識、技術が“活発に交流”し、活気に溢れた国士館となるよう、社会に向かって開かれた学園、オープンでグローバルな学園のイメージを表現しています。カラーは、深紅の楓にも由来し、“情熱”や“喜び”を表すオリジナルカラーの「国士館レッド」です。1997年の創立80周年記念事業の一環として制定されました。

アクセス

お問い合わせ窓口一覧

多摩キャンパスへのアクセス

- ▶小田急多摩線・京王相模原線永山駅前からスクールバス(無料)
- ▶小田急多摩線・京王相模原線永山駅から、「鶴川駅」「永山五丁目」行きバスで、「永山高校前」下車、徒歩5分

永山駅スクールバス乗り場
<永山駅から多摩キャンパスまで>
 所要時間:10分
 永山駅改札口を出て、階段を降りる。
 左手にある交番の前方に見える
 金属製のオブジェが目印。



町田キャンパスへのアクセス

- ▶小田急線鶴川駅からスクールバス(無料)
- ▶小田急線鶴川駅バスターミナル2番乗り場から、「六丁目」「センター」「北廻り」のいずれかを經由する「鶴川団地」行きバスで8~10分、「国士館大学前」下車

鶴川駅スクールバス乗り場
<鶴川駅から町田キャンパスまで>

所要時間:10分
 鶴川駅の改札口(1か所のみ)を出て、まっすぐ鶴川街道まで20m進む。ベンチが目印。



世田谷キャンパスへのアクセス

- ▶小田急線梅ヶ丘駅下車、徒歩9分
- ▶東急世田谷線松陰神社前駅または世田谷駅下車、徒歩6分
- ▶渋谷駅西口バスターミナル18番乗り場から「世田谷区民会館」行きバスで終点下車、徒歩1分



各学部へのお問い合わせ(各種証明書の発行など)

政経学部事務室	03-5481-3151
体育学部事務室	042-339-7202
体育学部子どもスポーツ教育学科事務室	042-736-2330
理工学部事務室	03-5481-3251
法学部事務室	03-5481-3311
文学部事務室	03-5481-3232
21世紀アジア学部事務室	042-736-1050
経営学部事務室	03-5481-3146
大学院課	03-5481-3140

学生の課外活動・奨学金・学生食堂など

学生・厚生課	03-5451-8114
--------	--------------

諸資格(教員免許等)・単位互換・学費に関すること

教務課	03-5481-3203
-----	--------------

就職に関すること

キャリア形成支援センター	03-5481-3308
--------------	--------------

国際交流・留学生・留学制度など

国際交流センター	03-5481-3206
----------	--------------

図書館利用および学術情報検索

図書館・情報メディアセンター	03-5481-3216
----------------	--------------

情報基盤について

図書館・情報メディアセンター	03-5481-3220
----------------	--------------

公開講座について

生涯学習センター	03-5451-1921
----------	--------------

大学入試に関すること

入学課	03-5481-3211
-----	--------------

併設校と各キャンパス

国士館高等学校(全日制)	03-5481-3131
国士館高等学校(定時制)	03-5481-5827
国士館高等学校(通信制)	03-5481-5827
国士館中学校	03-5481-3114
世田谷キャンパス(代表)	03-5481-3111
町田キャンパス(代表)	042-735-3111
多摩キャンパス(代表)	042-339-7200

その他(学園案内全般)

総務課	03-5481-3112
-----	--------------

国士館の沿革/資料に関すること

国士館史資料室	03-3418-2691
---------	--------------

同窓会に関すること

国士館大学同窓会事務局	03-3413-7303
-------------	--------------

※スクールバスはイベント開催時を除く日曜・祝日は運行しません。詳細はホームページをご覧ください。>>> <http://www.kokushikan.ac.jp/access/index.html>



2017年 創立100周年

国士館要覧 2014

発行日 平成26年7月1日

発行 学校法人国士館

編集 理事長室広報課

〒154-8515

東京都世田谷区世田谷4-28-1

Tel 03-5481-3115

<http://www.kokushikan.ac.jp/>

本要覧は平成26年5月1日現在の情報に基づいています。

